

調査結果の概要

1 調査概要

1-1 調査の目的

子どもの権利擁護施策を検討するうえでの基礎資料とするため、「子どもの権利」に関する県民（おとな・子ども）の実態・意識を把握するとともに、本県の今後の子ども施策に生かしていくことを目的とします。

1-2 調査の設計

本調査の設計は以下のとおりです。

- (1) 調査地域 滋賀県内全域
- (2) 調査対象
 - ①県内の小学4年生から高校3年生までの子ども（県内在住外国人を含む）
 - ②県内在住の満20歳以上の男女（県内在住外国人を含む）
 - ③児童養護施設、児童自立支援施設および情緒障害児短期治療施設に入所している子ども
- (3) 標本数
 - ①子ども…………… 4,500人（小・中・高各1,500人）
 - ②おとな…………… 1,500人
 - ③施設に入所している子ども… 200人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳および外国人登録原票から無作為抽出
- (5) 調査方法 質問紙による郵送調査（はがきによる督促1回）
- (6) 調査期間 2004年2月19日～3月5日
- (7) 調査票 日本語調査票および外国語（ポルトガル語・ハングル・中国語・スペイン語）調査票
- (8) 調査機関 (株)地域社会研究所
- (9) 監修 喜多 明人（早稲田大学教授 子どもの権利条約総合研究所）

1-3 配布・回収状況

調査票の配布・回収状況は以下のとおりです。

調査種別	発送数	回収数	回収率
子ども用	4,500	2,489	55.3%
おとな用	1,500	861	57.4%
施設の子ども用	200	152	76.0%

※県内在住外国人112名含む。

1-4 その他

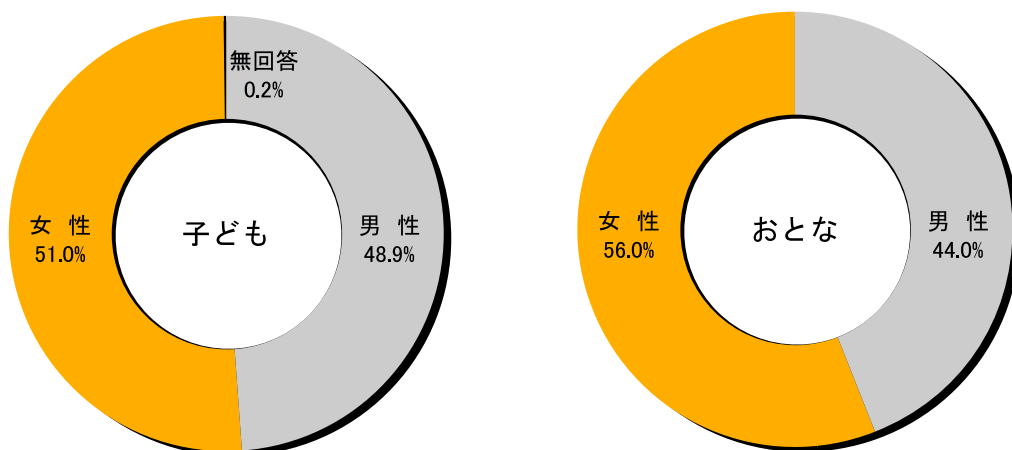
本報告書の記載内容についての注意事項は以下のとおりです。

- ①集計表、グラフにおける構成比は、小数点以下第2位で四捨五入している関係で、合計が100.0%にならないことがあります。
- ②施設に入所している子どもの集計結果は、サンプル数が少ないため子どもやおとなの結果との比較はせず、資料として掲載しています。

2 回答者の基本属性

2-1 性別

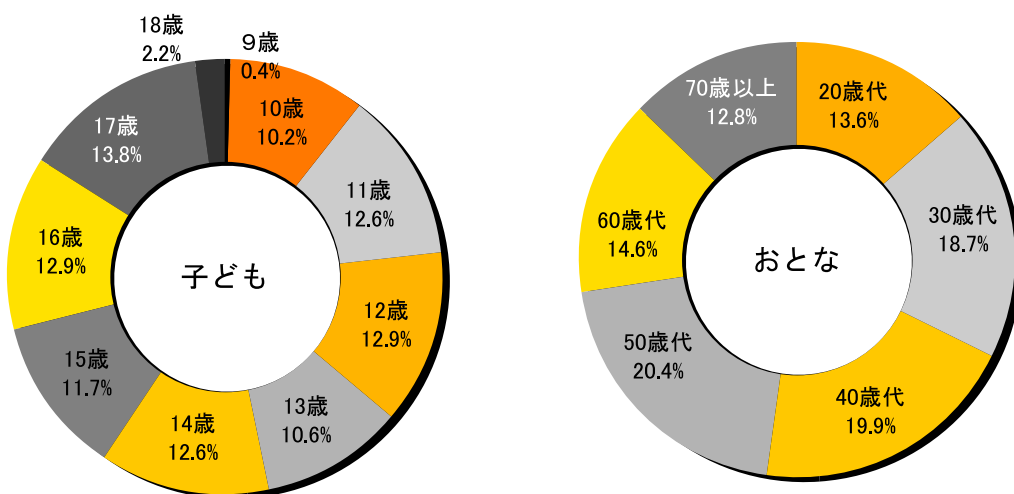
回答者の性別は、子どもは「男性」が48.9%、「女性」が51.0%となっています。おとなは「男性」が44.0%、「女性」が56.0%となっています。



2-2 年齢

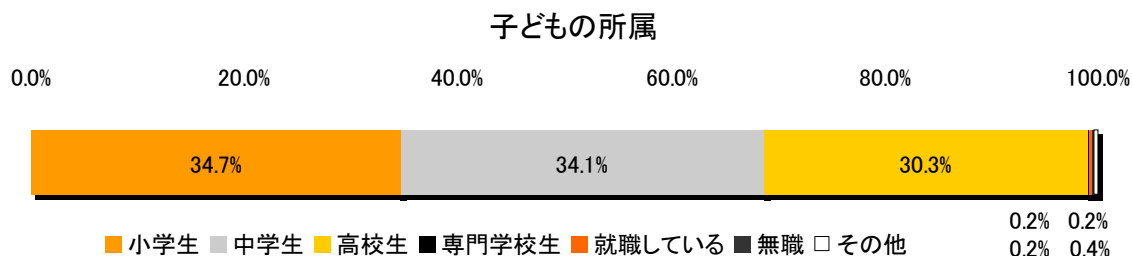
回答者の年齢は、子どもは「10歳」から「17歳」まで10%台前半でほぼ均等に分布しています。

おとなは「50歳代」が20.4%で最も多く、以下「40歳代」が19.9%、「30歳代」が18.7%となっています。



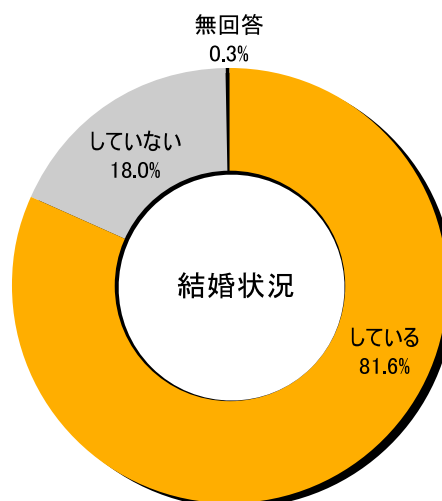
2-3 就学等の状況(子ども)

子どもの就学状況は、「小学生」が34.7%、「中学生」34.1%、「高校生」が30.3%でほぼ均等に分布し、「専門学校生」等その他は、合わせて約1%となっています。



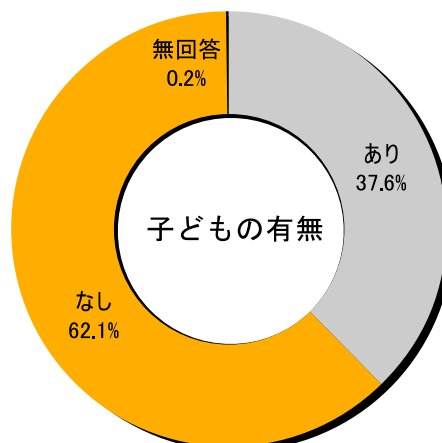
2-4 結婚状況(おとな)

おとなの結婚状況は、「結婚している」が81.6%、「結婚していない」が18.0%となっています。



2-5 子どもの有無(おとな)

おとなの子ども(0歳から17歳)の有無は、「あり」が37.6%、「なし」が62.1%となっています。

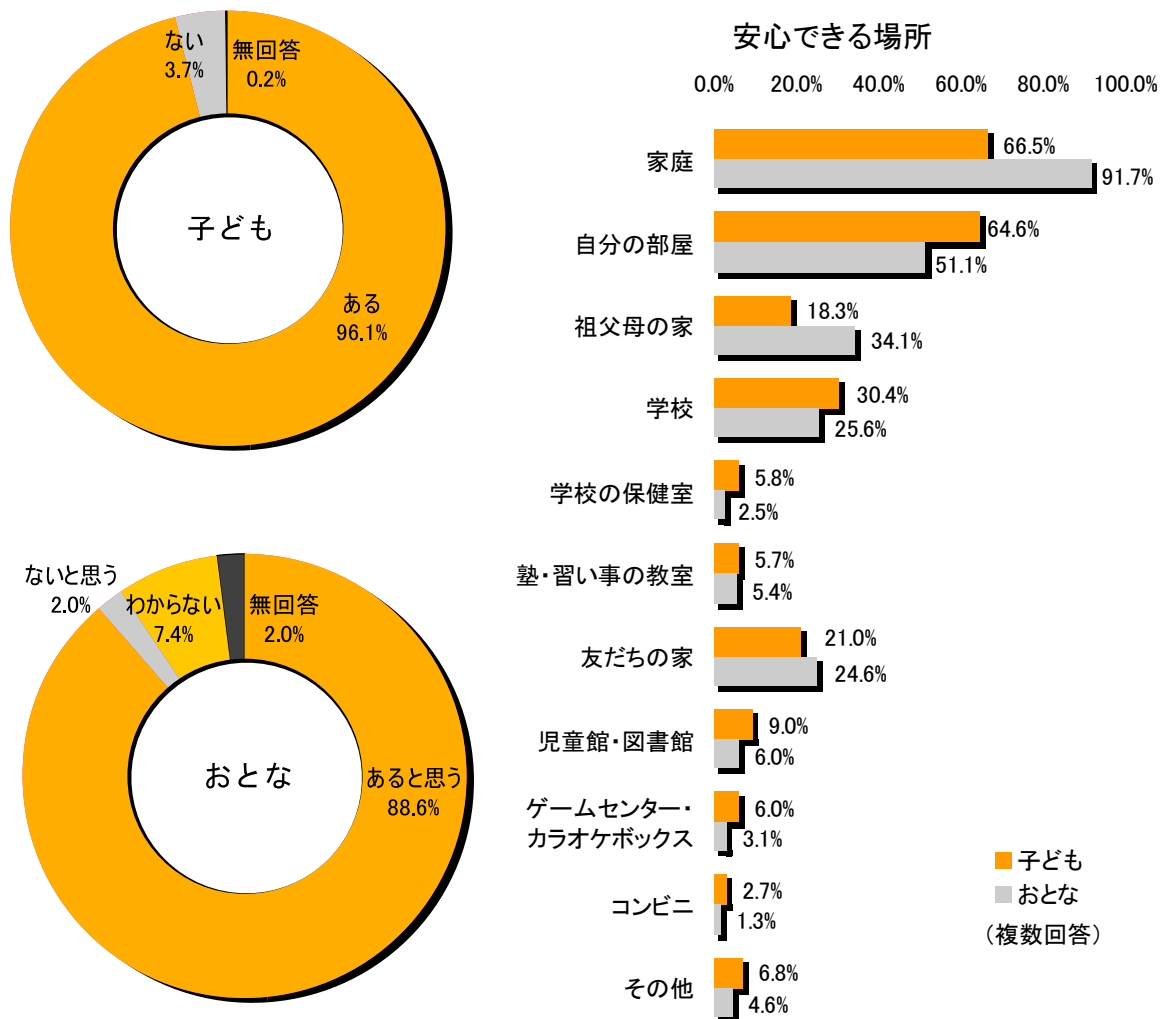


3 日常生活

3-1 安心できる場所

子どもが居心地がよかったり、安心できる場所があるかどうかについては、「ある(と思う)」と回答した人は、子どもは96.1%、おとなは88.6%となっており、子どものほうが7.5ポイント上回っています。

また、「居心地がよかったり、安心できる場所」については、子どももおとなともに「家庭」が最も多く、ついで「自分の部屋」となっています。しかし、「家庭」と回答した子どもが66.5%であるのに対して、おとなは91.7%となっており、子どものほうが25.2ポイント下回っています。逆に、「自分の部屋」と回答した子どもが64.6%であるのに対して、おとなは51.1%となっており、子どものほうが13.5ポイント上回っています。



3-2 不安や悩みの相談相手

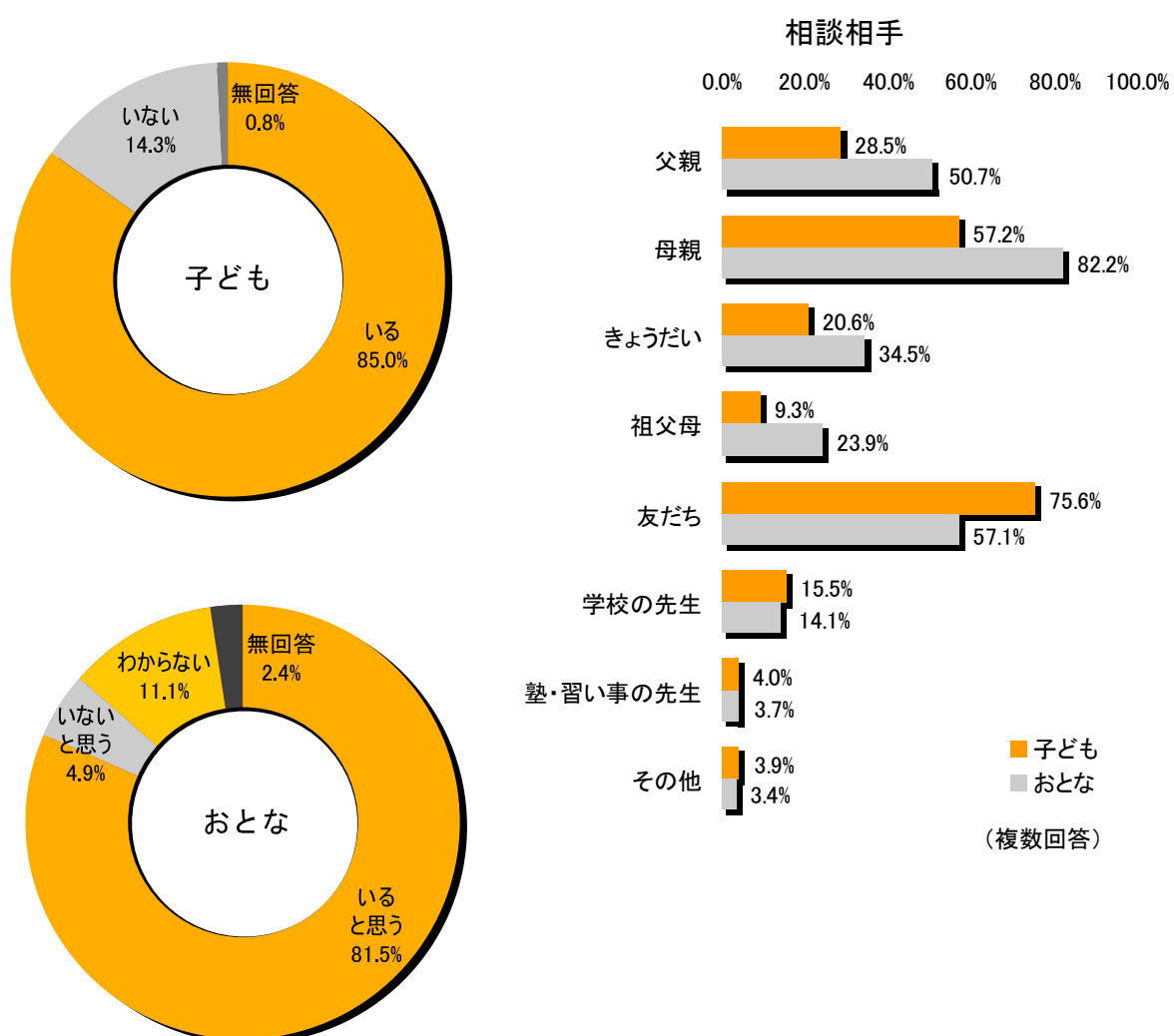
子どもが不安や悩みを抱えているときに相談できる人がいるかどうかについては、「いる（と思う）」と回答した人は、子どもは85.0%、おとなは81.5%となっています。

一方、「いない（と思う）」は、子どもの14.3%に対して、おとなは4.9%と少なくなっています。

「相談相手」としては、子どもは「友だち」が75.6%で最も多く、ついで「母親」が57.2%となっています。

これに対して、おとなは「母親」が82.2%で最も多く、ついで「友だち」が57.1%となっています。

また、おとなは子どもよりも「父親」や「母親」「きょうだい」等、家族を相談相手としてあげている傾向がうかがえます。

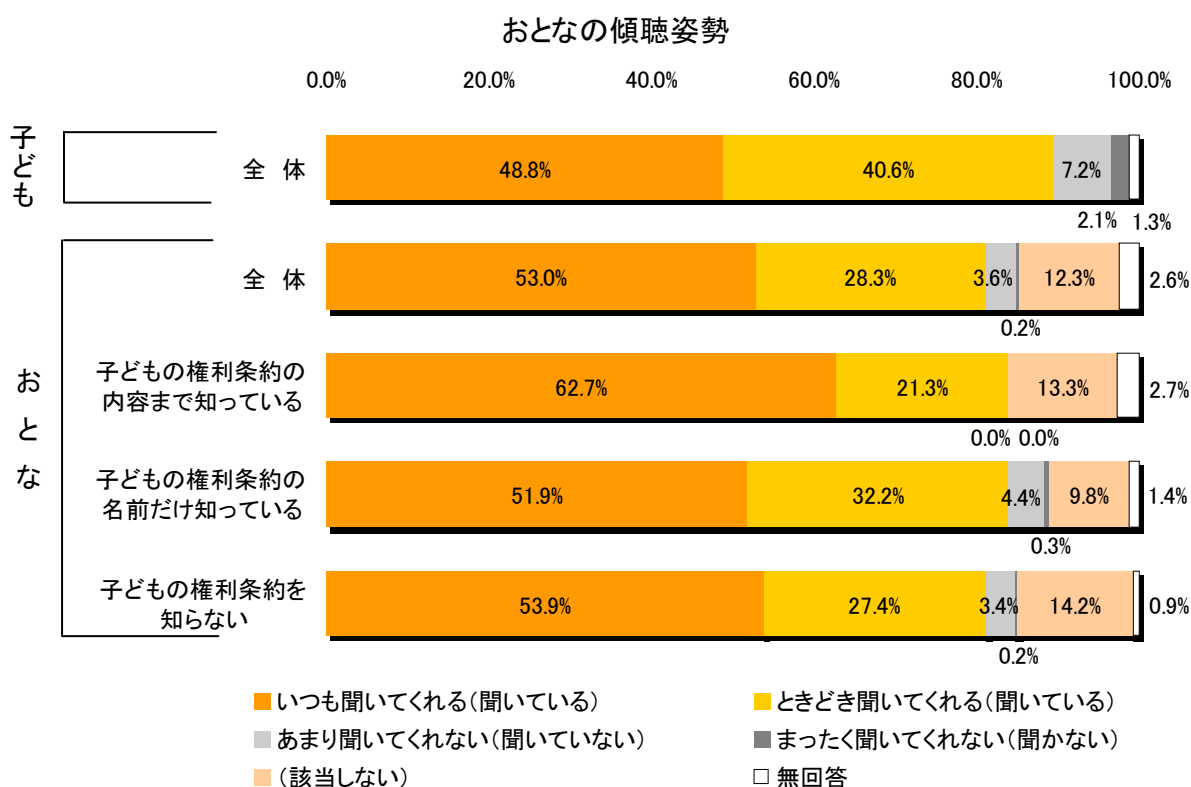


3-4 おとなの傾聴姿勢

子どもに関わることを決めるときに、子どもの意見を聞いているかどうかについては、子どもは「いつも聞いてくれる」が48.8%、「ときどき聞いてくれる」が40.6%となっており、子どもの約90%が意見を聞いてくれると回答しています。

一方、おとなは「いつも聞いている」53.0%、「ときどき聞いている」が28.3%となっており、おとなの約80%が意見を聞いていると回答しています。

これを子どもの権利条約の認知度別にみると、おとなで条約の内容まで知っている人は「いつも聞いている」が60%を超えており、条約を知らない人などに比べて子どもの意見を聞く割合が高くなっています。



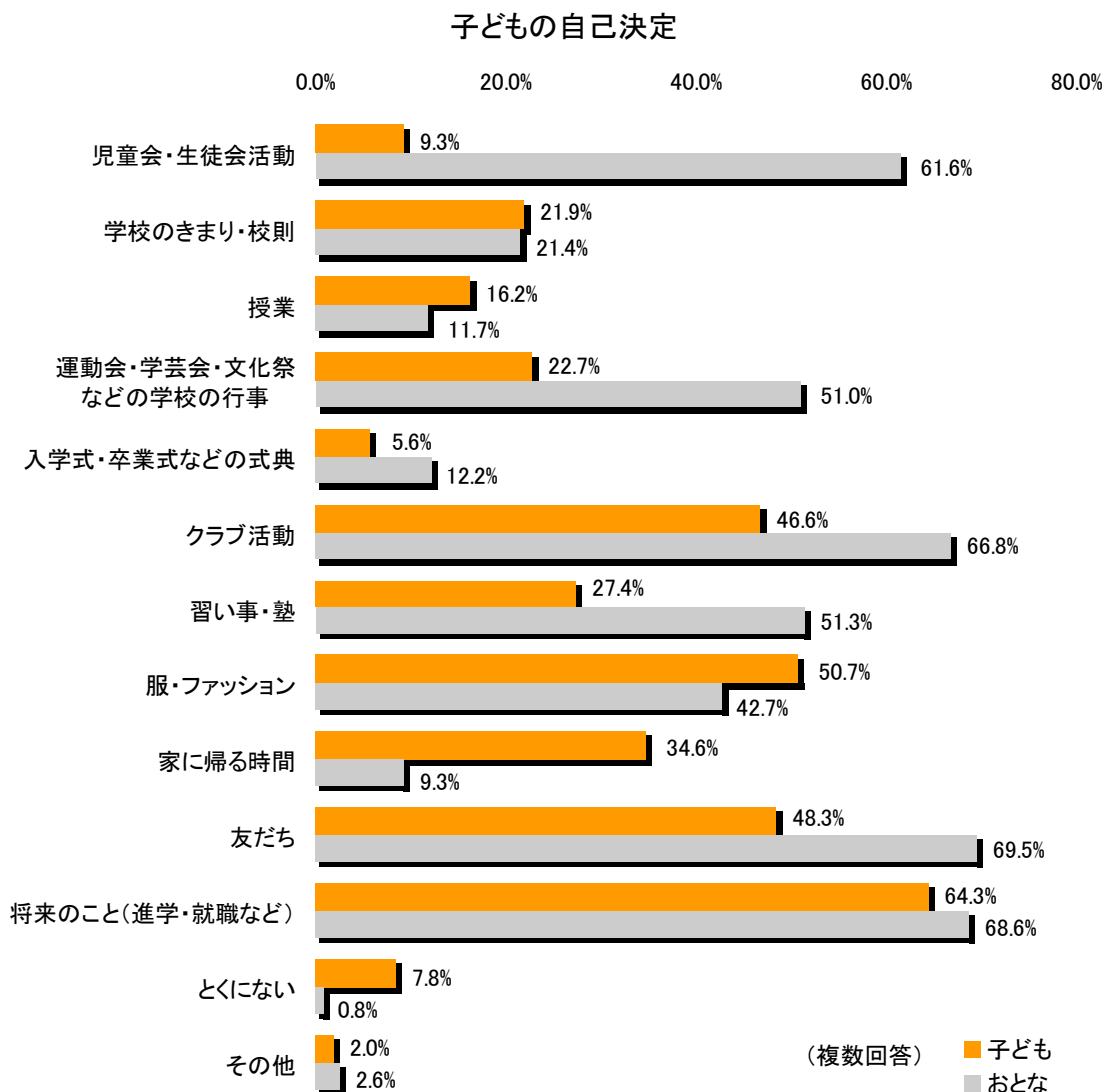
3-5 子どもの自己決定

子どもが自分で決めたいと思うことは、「将来のこと」が64.3%で最も多く、ついで「服・ファッション」が50.7%、「友だち」が48.3%、「クラブ活動」が46.6%となっています。

おとなが子ども自身が決めてもいいと思うことは、「友だち」が69.5%で最も多く、ついで「将来のこと」が68.6%、「クラブ活動」が66.8%、「児童会・生徒会活動」が61.6%となっています。

子どもとおとなとの間での違いは、「家に帰る時間」は、子どもは34.6%、おとなは9.3%で25.3ポイント、また「服・ファッション」は、子どもは50.7%、おとなは42.7%で8ポイント、それぞれ子どものほうが上回っています。

一方、「児童会・生徒会活動」は、子どもは9.3%、おとなは61.6%で52.3ポイント、「運動会・学芸会・文化祭などの学校の行事」は、子どもは22.7%、おとなは51.0%で28.3ポイント、おとなのほうが上回っています。さらに「友だち」「習い事・塾」「クラブ活動」等でも、おとなのほうが子どもよりもポイントが高くなっています。

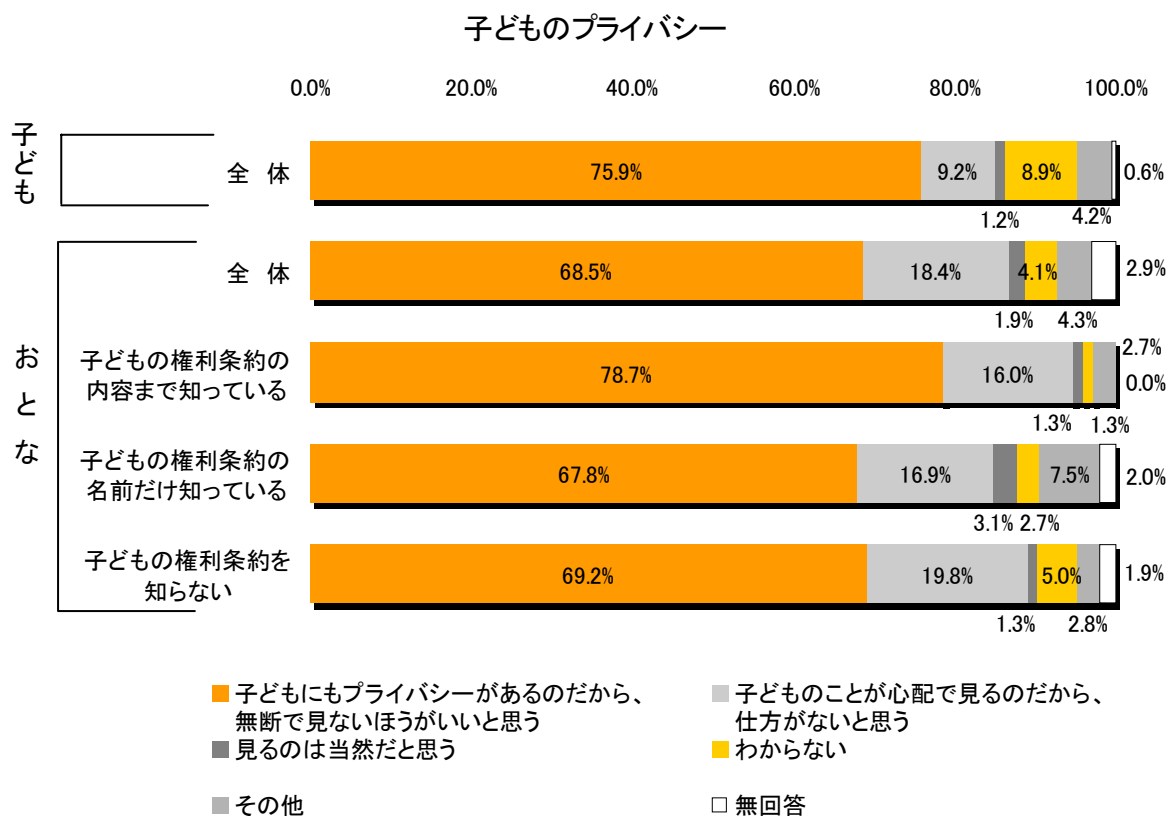


3-6 子どものプライバシー

子どもの日記や手紙、携帯電話のメールなどを無断で見ることについては、「子どもにもプライバシーがあるのだから、無断でみないほうがいいと思う」と回答した人は、子どもは75.9%、おとなは68.5%となっており、子どものほうが7.4ポイント上回っています。

一方、「子どものことが心配で見るのだから、仕方がないと思う」と回答した人は、子どもは9.2%、おとなは18.4%と、おとなは子どもの約2倍となっています。

またこれを、おとなの子どもの権利条約の認知度別にみると、「子どもにもプライバシーがあるのだから、無断でみないほうがいいと思う」と回答した人は、条約の内容まで知っている人では78.7%、まったく知らない人では69.2%となっており、子どもの権利の内容を知っている人は、子どものプライバシーを尊重している割合が高くなっています。



3-7 おとなからの体罰

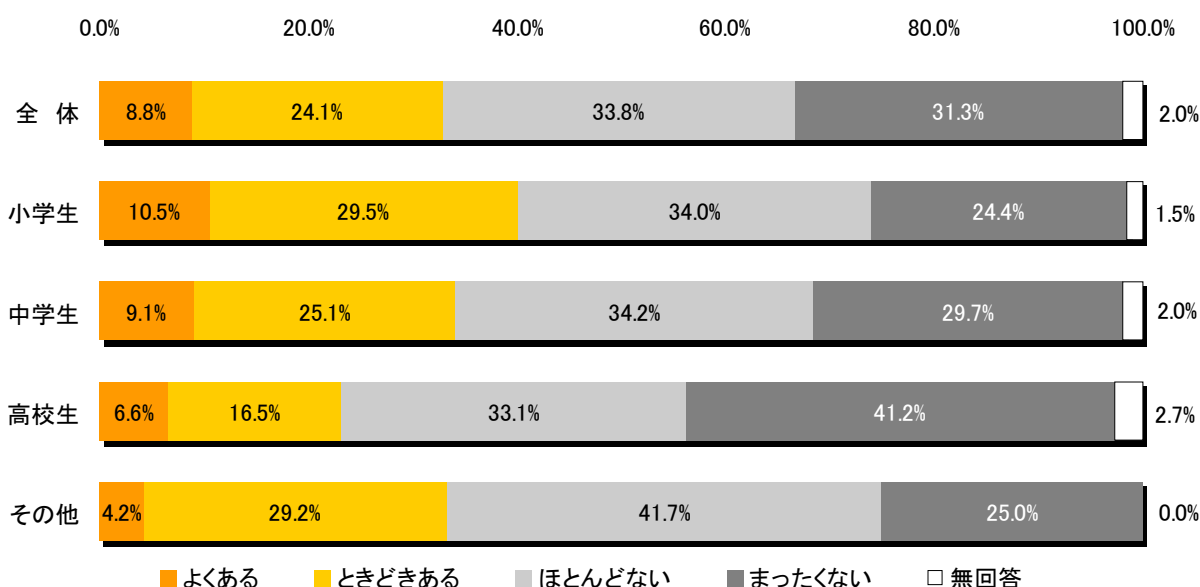
3-7-1 おとなからの体罰によるつらい経験（子ども）

親にたたかれてつらいと思ったことがあるかどうかについては、全体で「よくある」「ときどきある」と回答した子どもを合わせると、32.9%にもものぼっています。

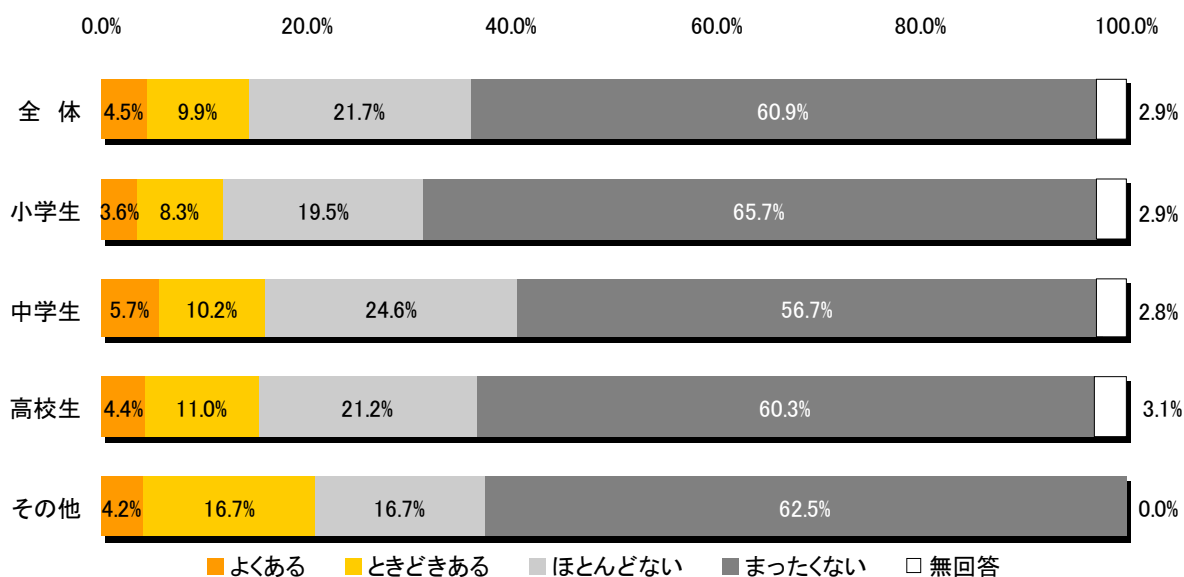
これを小・中・高別にみると、小学生では40.0%、中学生では34.2%、高校生では23.1%となっており、年齢が低いほど体罰を受ける割合が高くなっています。

家族以外のおとなにたたかれてつらいと思ったことがあるかどうかについては、全体で「よくある」「ときどきある」と回答した子どもを合わせると、14.4%にもものぼっています。

親からの体罰によるつらい経験



家族以外のおとなからの体罰によるつらい経験

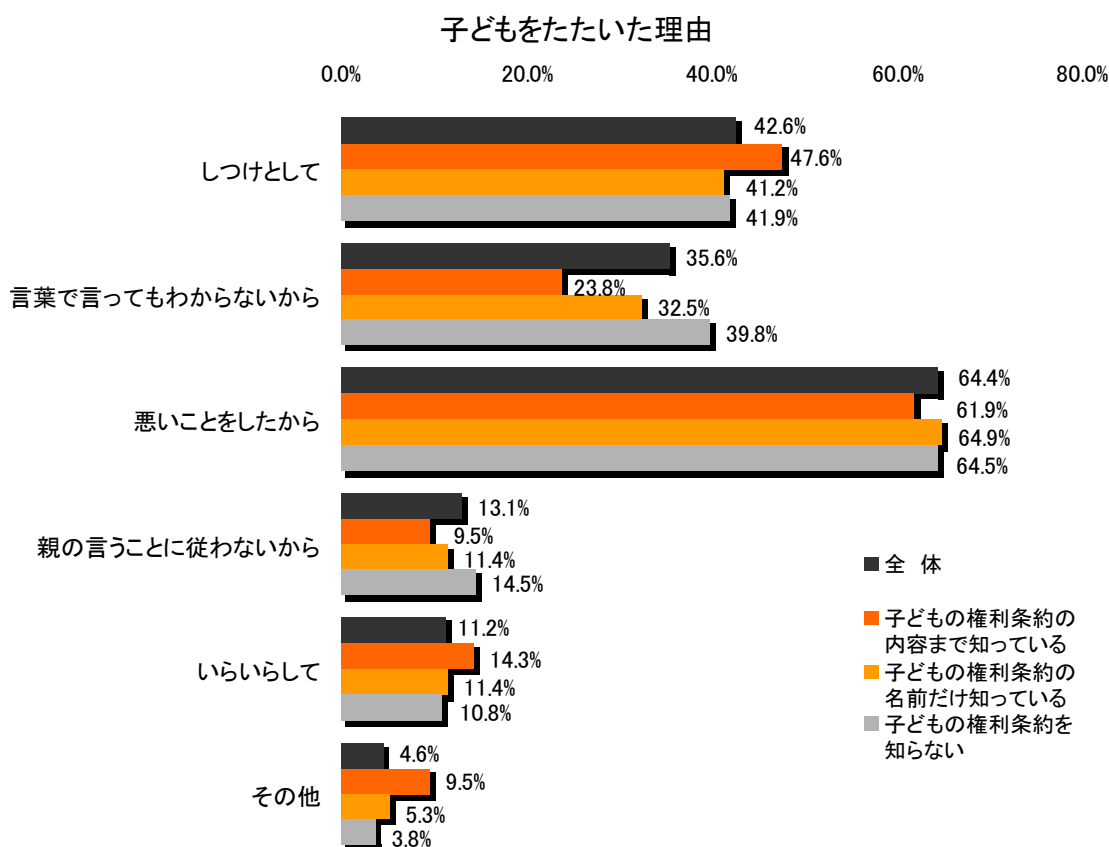
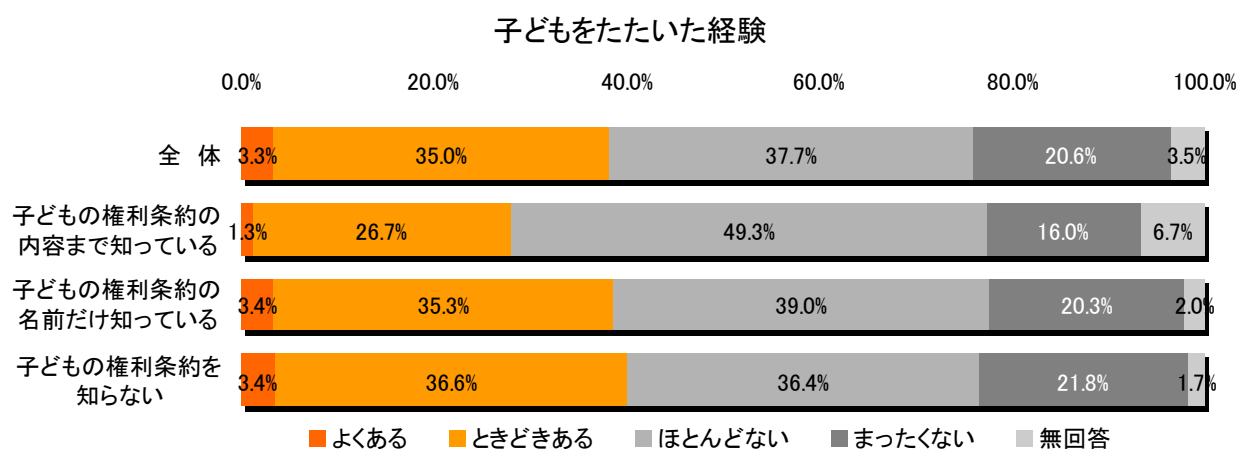


3-7-2 子どもをたたいた経験（おとな）

これまでに子どもをたたいた経験は、全体で「よくある」「ときどきある」と回答した人を合わせると、おとなの38.3%が「子どもをたたいたことがある」と回答しています。

また、たたいた経験がある人にその理由をあげてもらったところ、「悪いことをしたから」が64.4%で最も多く、ついで「しつけとして」が42.6%、「言葉で言ってもわからないから」が35.6%となっています。

これを子どもの権利条約の認知度別にみると、条約の内容まで知っている人では「ほとんどない」「まったくない」と回答した人を合わせると65.3%で、条約を知らない人の58.2%に比べて7.1ポイント高くなっており、子どもをたたいた経験の割合が少ない傾向となっています。



3-7-3 おとなが子どもをたたくこと

親が子どもをたたくことについては、「たたくことはあってはならないと思う」と回答した人は、子どもは27.7%、おとなは18.4%となっており、子どものほうが9.3ポイント上回っています。

一方、「子どもが言うことを聞かないときは、たたくことは当然だと思う」とする体罰肯定は、子どもは5.3%、おとなは4.3%となっています。

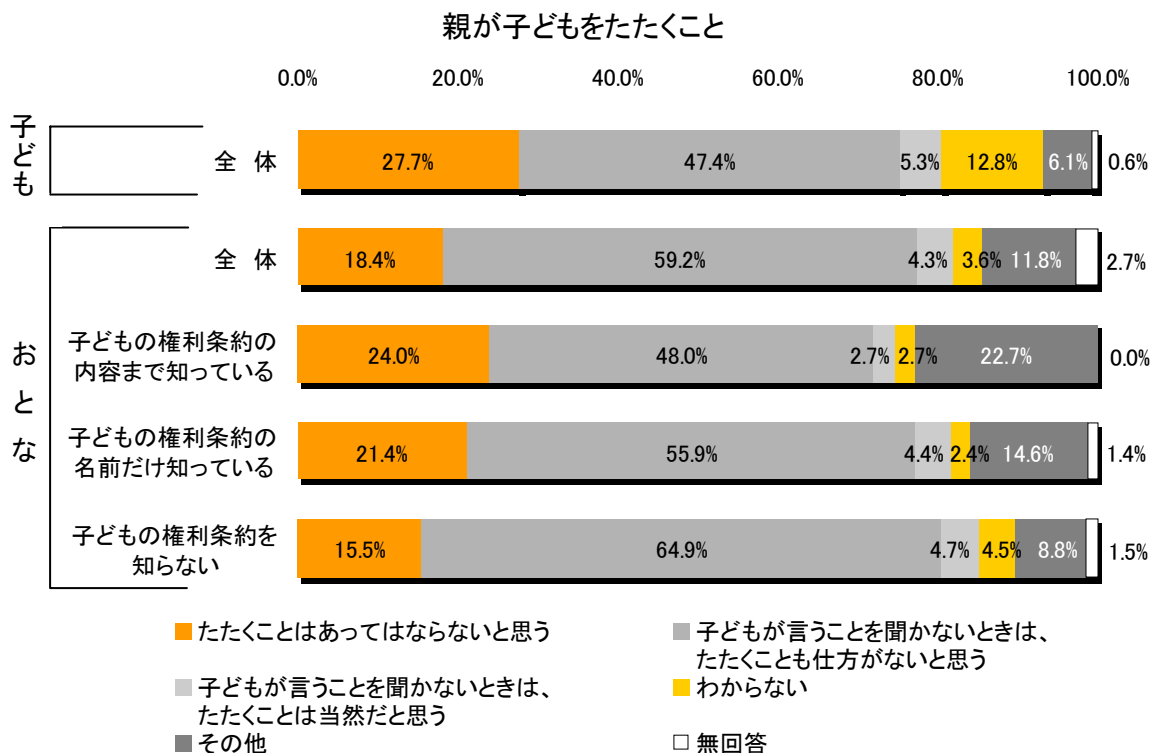
これを、おとなで子どもの権利条約の認知度別にみると、条約の内容まで知っている人で、「たたくことはあってはならないと思う」と回答した人は24.0%で、条約を知らない人の15.5%に比べて8.5ポイント上回っています。逆に条約の内容まで知っている人で、「子どもが言うことを聞かないときは、たたくことも仕方がないと思う」と回答した人は48.0%で、条約を知らない人の64.9%に比べて、16.9ポイント下回っています。

家族以外のおとなが子どもをたたくことについては、「たたくことはあってはならないと思う」と回答した人は、子どもは57.0%、おとなは42.3%となっており、子どものほうが14.7ポイント上回っています。

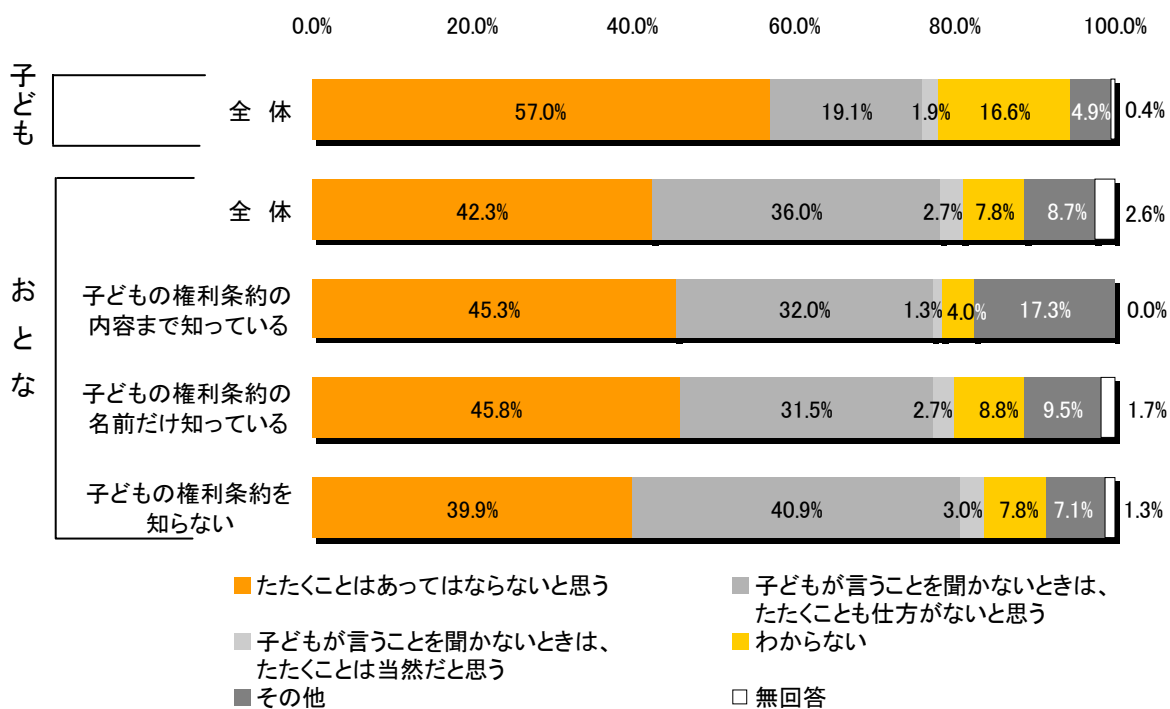
一方、「子どもが言うことを聞かないときは、たたくことは当然だと思う」は、子どもは1.9%、おとなは2.7%となっています。

これをおとなで子どもの権利条約の認知度別にみると、条約の内容まで知っている人で「子どもが言うことを聞かないときは、たたくことも仕方がないと思う」と回答した人は32.0%で、条約を知らない人の40.9%に比べて、8.9ポイント下回っています。

このように、子どもの権利条約の認知度が高いおとなほど、子どもをたたくことについて否定的な思いを持っていることがうかがえます。



家族以外のおとなが子どもをたたくこと

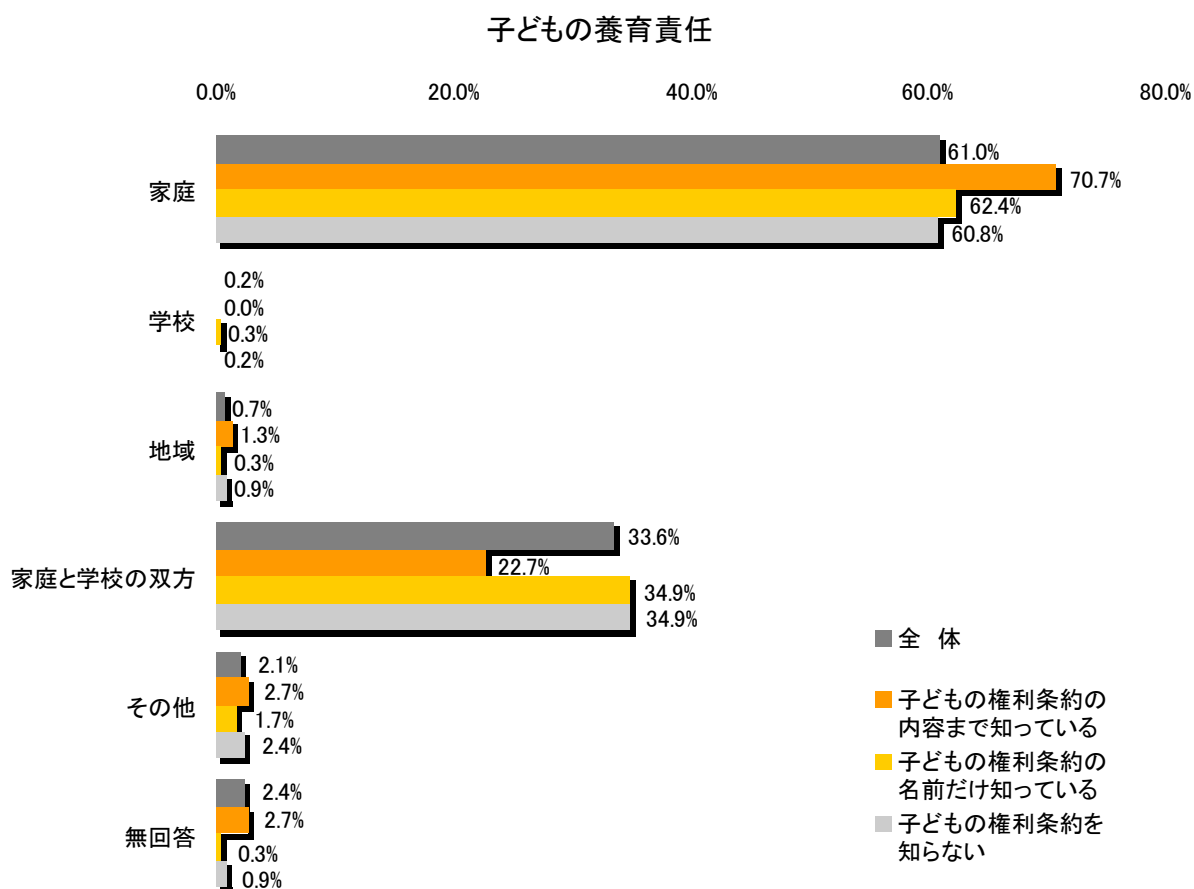


3-8 子どもの養育責任(おとな)

子どもの養育について誰が責任を負うかについては、全体では「家庭」が61.0%で最も多く、ついで「家庭と学校の双方が」が33.6%となっています。

これを子どもの権利条約の認知度別にみると、条約の内容まで知っている人で、「家庭」と回答した人は70.7%で、条約を知らない人の60.8%に比べて、9.9ポイント上回っています。その一方で、条約の内容まで知っている人で、「家庭と学校の双方が」と回答した人は22.7%で、条約を知らない人の34.9%に比べて、12.2ポイント下回っています。

条約の内容まで知っている人ほど、家庭における養育責任を強く感じているようです。



4 学校生活や地域活動

4-1 いじめなどつらいこと(子ども)

いじめなど子どもがつらくてどうしようもないことを言われたり、されたりした経験については、「ある」と回答した子どもは37.1%となっており、3分の1以上の子どもがつらい経験をしています。

つらい経験をしたときの気持ちは、「ガマンできるが、つらい気持ち」が49.0%と約半分を占めていますが、中でも「生きているのがイヤになるくらいのつらい気持ち」を感じた子どもも14.6%にのぼっています。

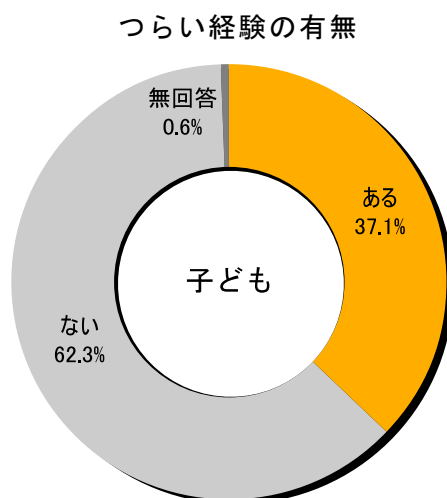
これを小・中・高別にみると、「生きているのがイヤになるくらいのつらい気持ち」「家に帰りたくなかったり、学校に行きたくないと感じるほどのつらい気持ち」を合わせると、小学生では39.1%、中学生では42.5%、高校生では50.7%となっており、強いつらさを感じているようです。

つらい経験をしたときの対応としては、「ほかの人に相談して、やめてもらおうとした」が35.4%で最も多くなっていますが、「だれにも相談できず、イヤな気持ちのままだった」が31.9%にのぼっています。

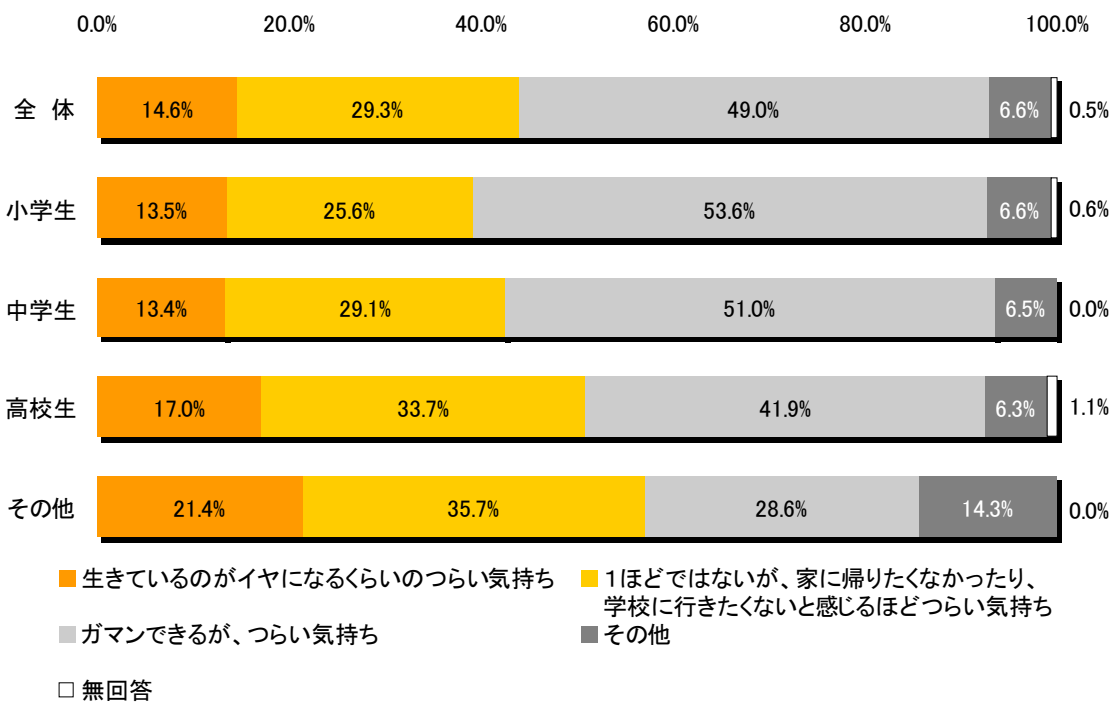
つぎに、つらい経験の有無別に安心できる場所をみると、つらい経験のある子どもは、ない子どもに比べて「家庭」で5.8ポイント、「学校」で6.5ポイント下回っています。

同様に、つらい経験の有無別に親からの体罰経験をみると、つらい経験がある子どもは、親からの体罰経験が「ある」「ときどきある」を合わせると43.0%で、つらい経験のない子どもの26.6%に比べて16.4ポイント上回っています。

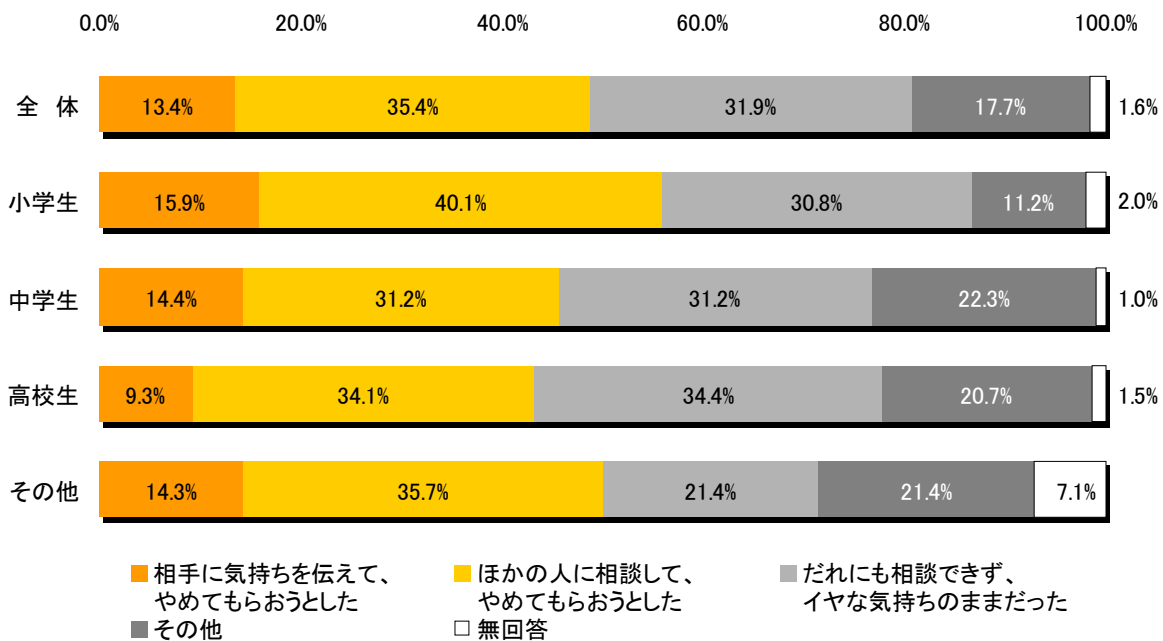
また家族以外のおとなからの体罰経験では、つらい経験がある子どもは、「ある」「ときどきある」を合わせると20.4%で、つらい経験のない子どもの10.9%に比べて9.5ポイント上回っており、体罰が子どもにとってつらいものとなっていることがうかがえます。



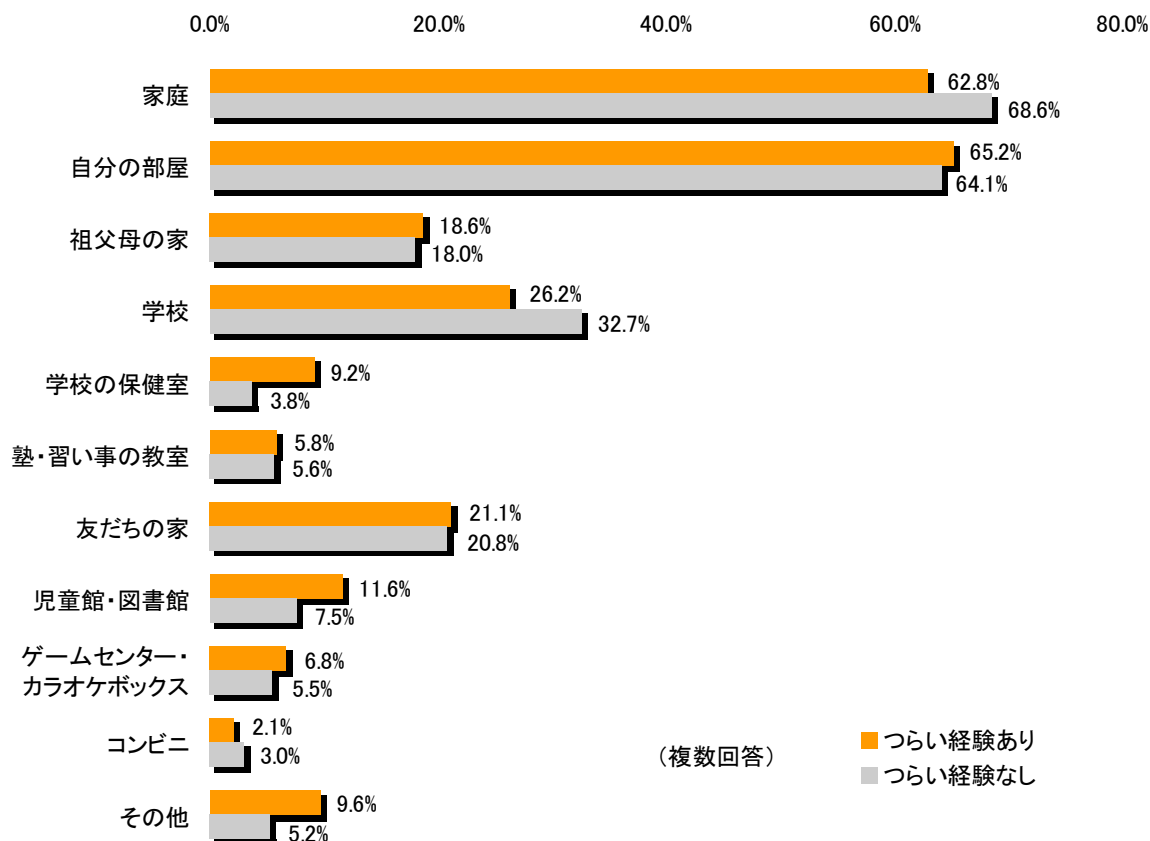
つらい経験をしたときの気持ち



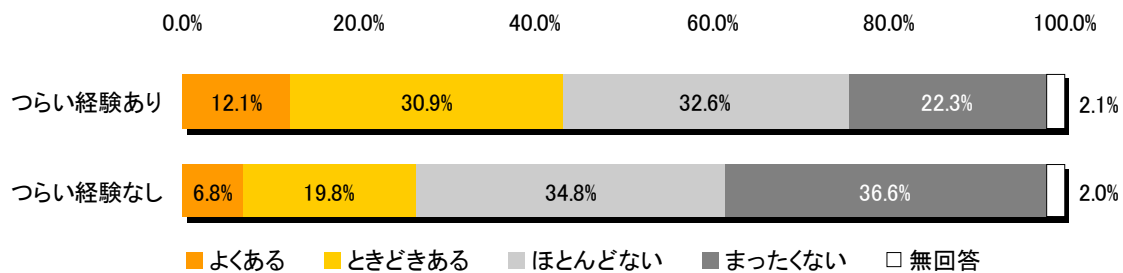
つらい経験をしたときの対応



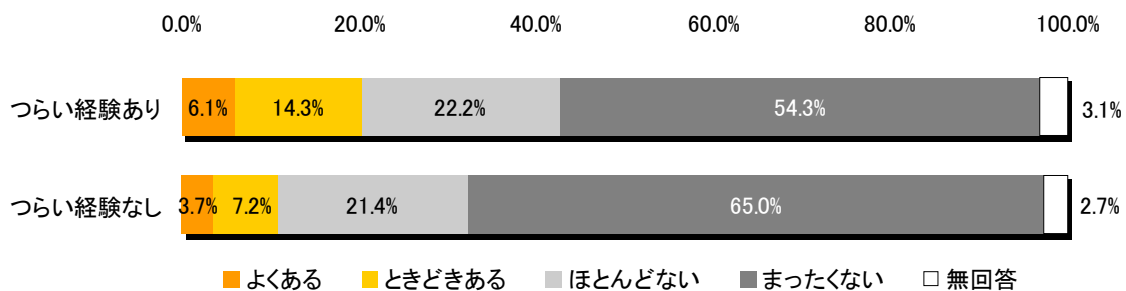
つらい経験の有無別安心できる場所



つらい経験の有無別親からの体罰経験



つらい経験の有無別家族以外のおとなからの体罰経験



4-2 学校に行きたくない経験

学校に行きたくないと思ったこと（子どもが学校を休みたいと感じていると、おとなが思ったこと）が「ある」と回答した人は、子どもは68.2%、おとなは44.3%となっており、子どものほうが23.9ポイント上回っています。

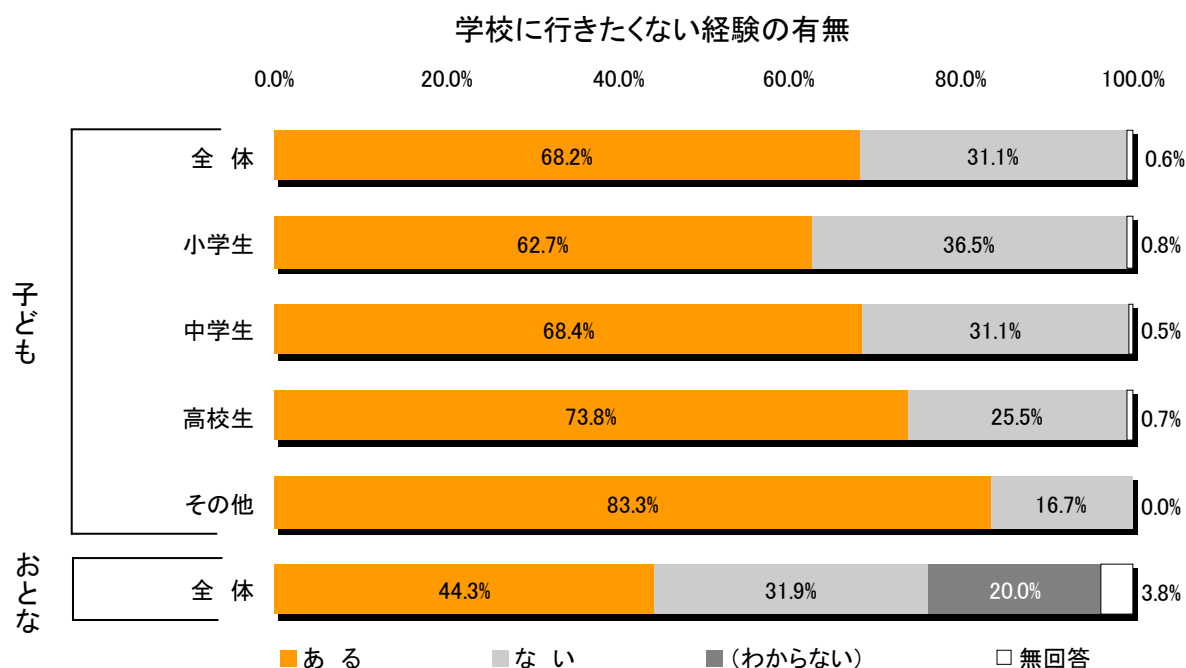
また、小・中・高別にみると、「ある」と回答した子どもは、小学生では62.7%、中学生では68.4%、高校生では73.8%となっており、高校生は小学生よりも11.1ポイント上回っています。

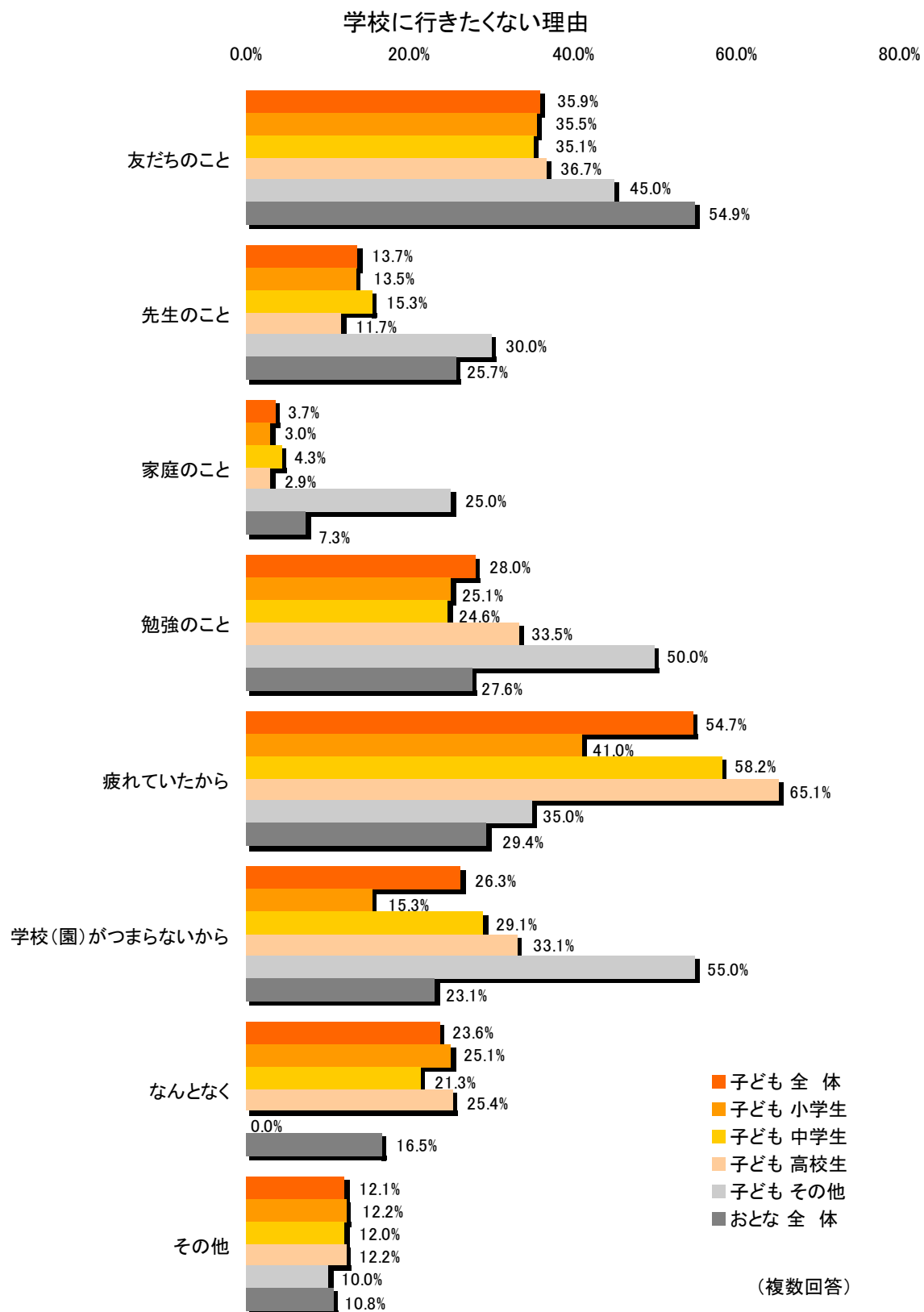
学校に行きたくない理由は、子どもは「疲れていたから」が54.7%で最も多く、ついで「友だちのこと」が35.9%、「勉強のこと」が28.0%となっています。一方おとなは「友だちのこと」が54.9%で最も多く、ついで「疲れていたから」が29.4%、「勉強のこと」が27.6%となっています。

これを小・中・高別にみると、「疲れていたから」と回答した子どもは、小学生では41.0%、中学生では58.2%、高校生では65.1%となっており、高校生は小学生よりも24.1ポイント上回っています。また、「学校（園）がつまらないから」と回答した子どもは、小学生では15.3%、中学生では29.1%、高校生では33.1%となっており、高校生は小学生よりも17.8ポイント上回っています。

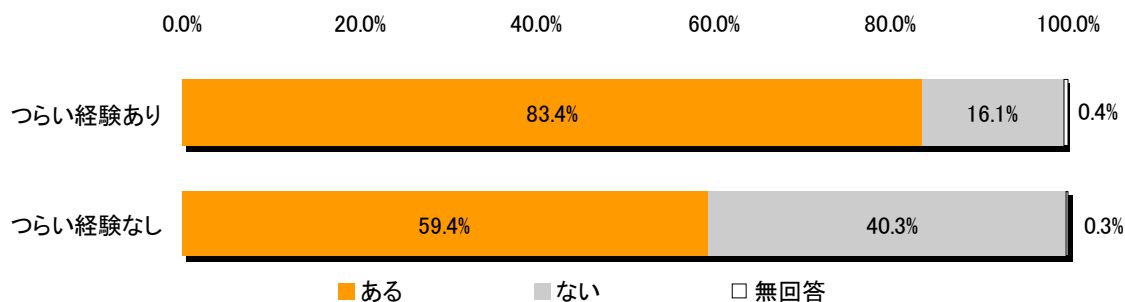
つぎに、つらい経験の有無別で、学校に行きたくない経験の有無をみると、つらい経験のある子どもの83.4%が学校に行きたくないと思っただけであり、つらい経験のない子どもの59.4%に比べて24ポイント上回っています。

さらに、これを学校に行きたくない理由でみると、「友だちのこと」と回答した子どものうち、つらい経験のある子どもは57.1%で、つらい経験のない子どもの17.8%に比べて、39.3ポイント上回っています。

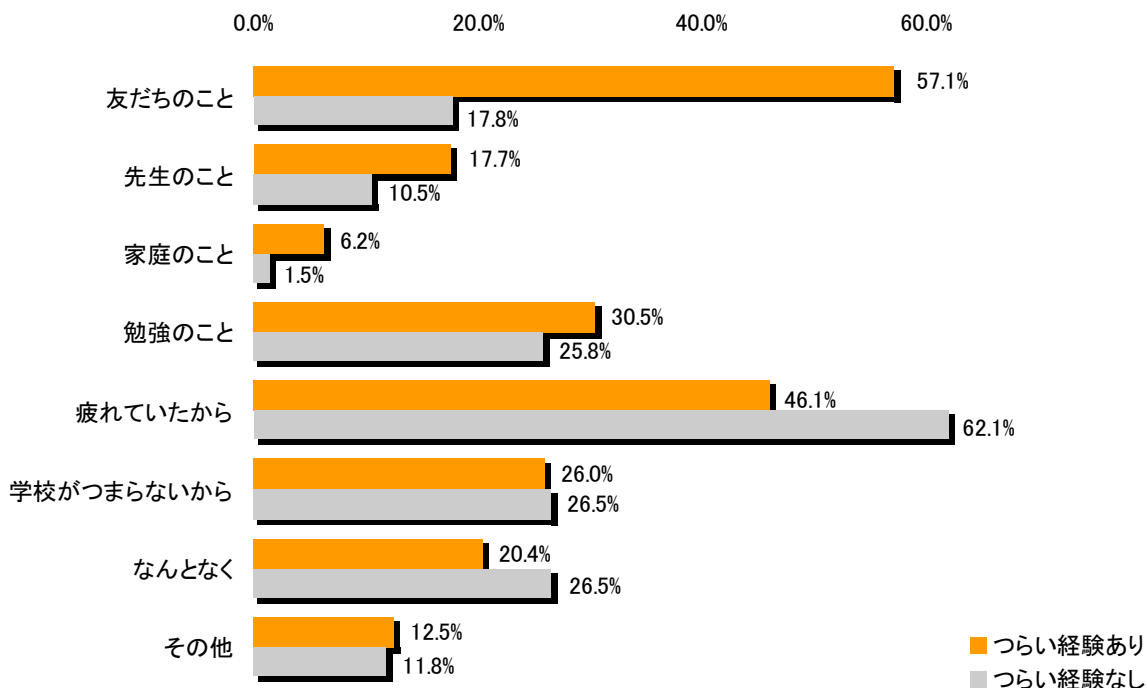




つらい経験の有無別学校に行きたくない経験の有無



つらい経験の有無別学校に行きたくない理由



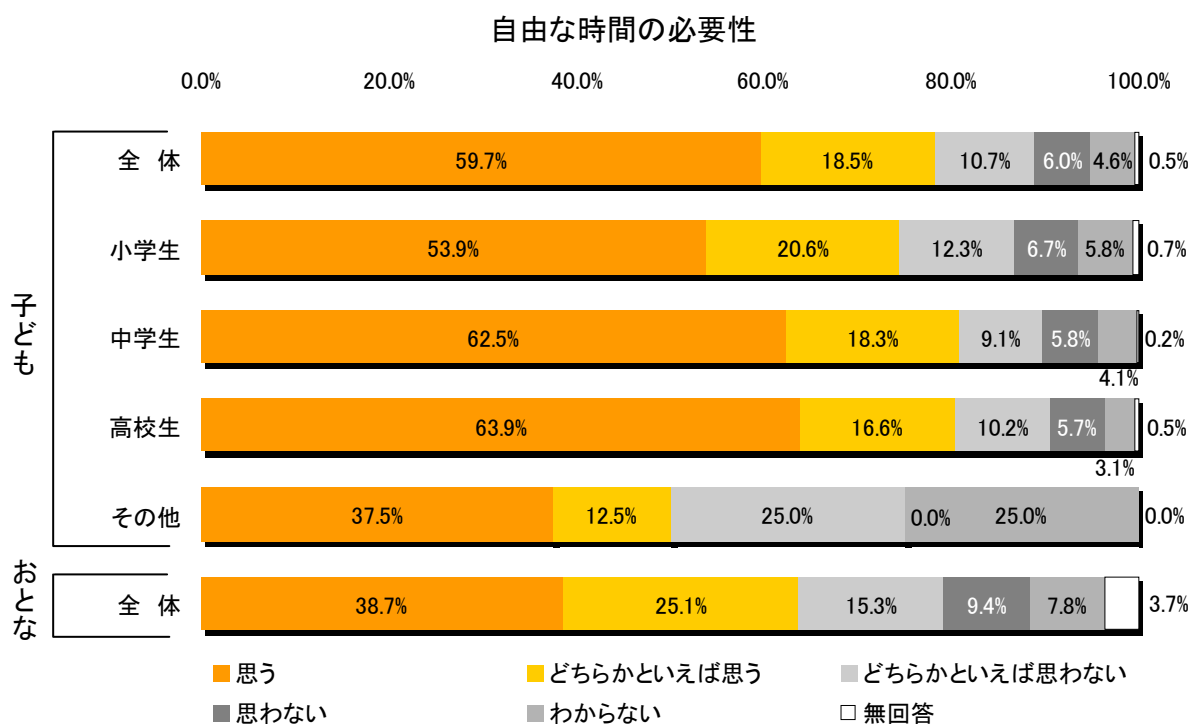
4-3 自由な時間の必要性

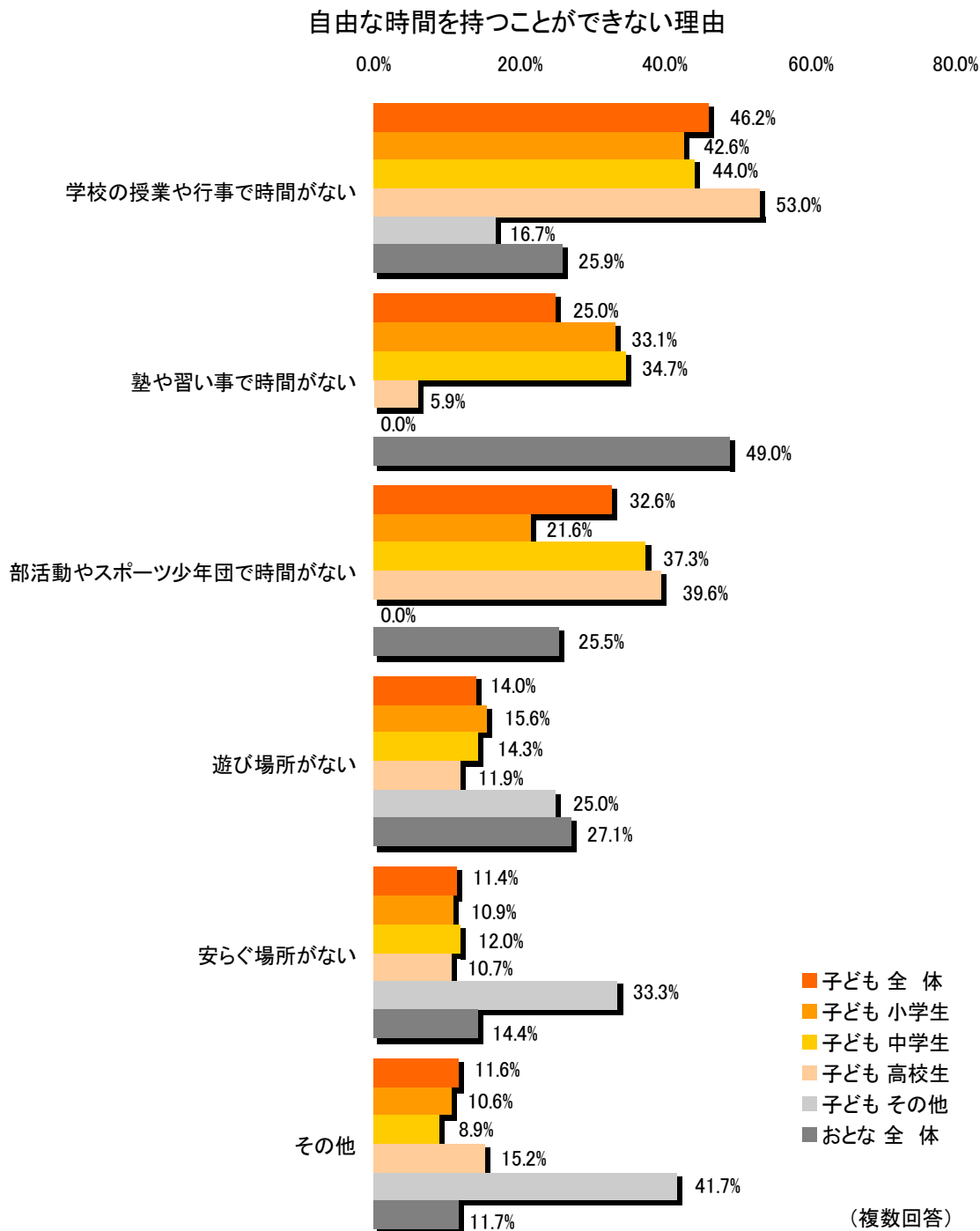
子どもがゆっくり休んだり、遊んだりするなど、自分の自由になる時間の必要性については、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した人を合わせると、子どもは78.2%、おとなは63.8%で、子どものほうが14.4ポイント上回っています。

これを小・中・高別にみると、「思う」と回答した子どもは、小学生では53.9%、中学生では62.5%、高校生では63.9%となっており、高校生は小学生を10ポイント上回っています。

子どもが自由な時間を持つことができない理由については、子どもは「学校の授業や行事で時間がない」が46.2%で最も多く、ついで「部活動やスポーツ少年団で時間がない」が32.6%となっています。おとなは、「塾や習い事で時間がない」が49.0%で最も多くなっています。

これを小・中・高別にみると、「塾や習い事で時間がない」は、小学生・中学生に多く、また、「部活動やスポーツ少年団で時間がない」は、中学生・高校生に多い傾向がみられます。





4-4 学校や地域活動への意見表明(子ども)

子どもが、学校や地域の活動について自分の意見を言える場があれば参加したいと思うかについては、「思わない」が25.4%で最も多く、ついで「どちらかといえば思わない」が23.7%となっています。

これを小・中・高別にみると、「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答した子どもを合わせると、小学生では38.8%、中学生では53.9%、高校生では55.1%となっており、中学生、高校生で消極的な姿勢がみられます。

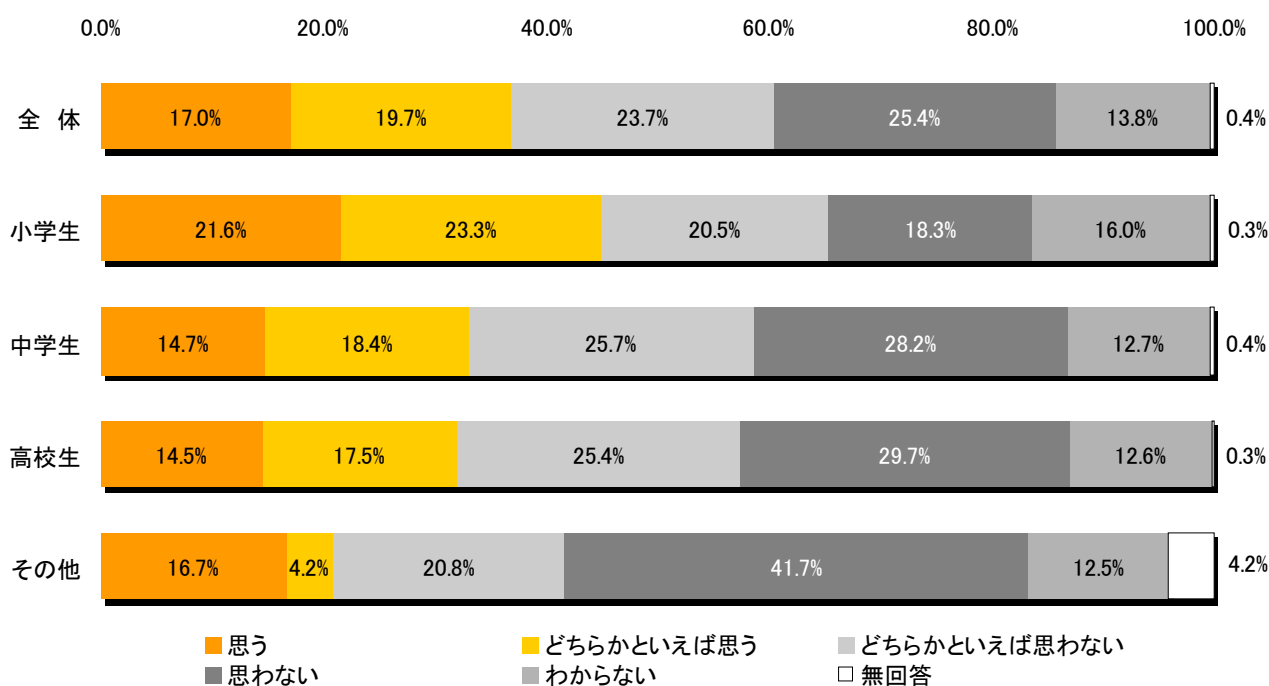
参加したくないと思う理由については、「面倒くさそうだから」が62.2%で最も多く、ついで「おもしろくなさそうだから」が36.7%、「なにも変わらないから」が25.5%となっています。

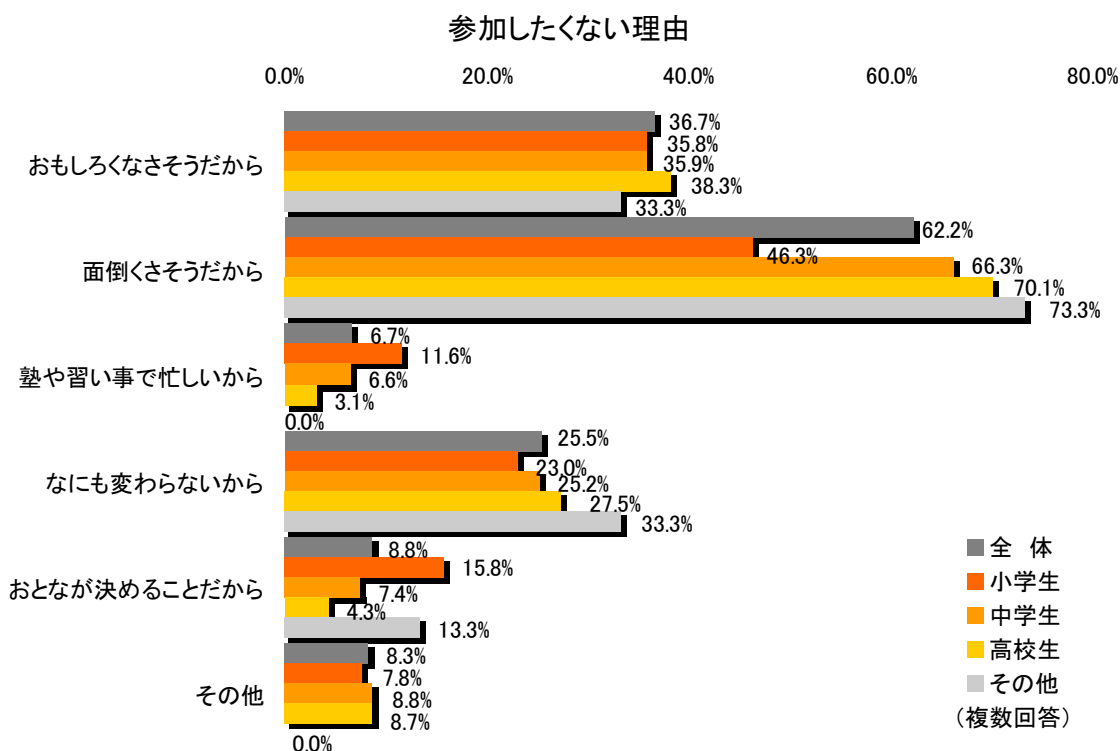
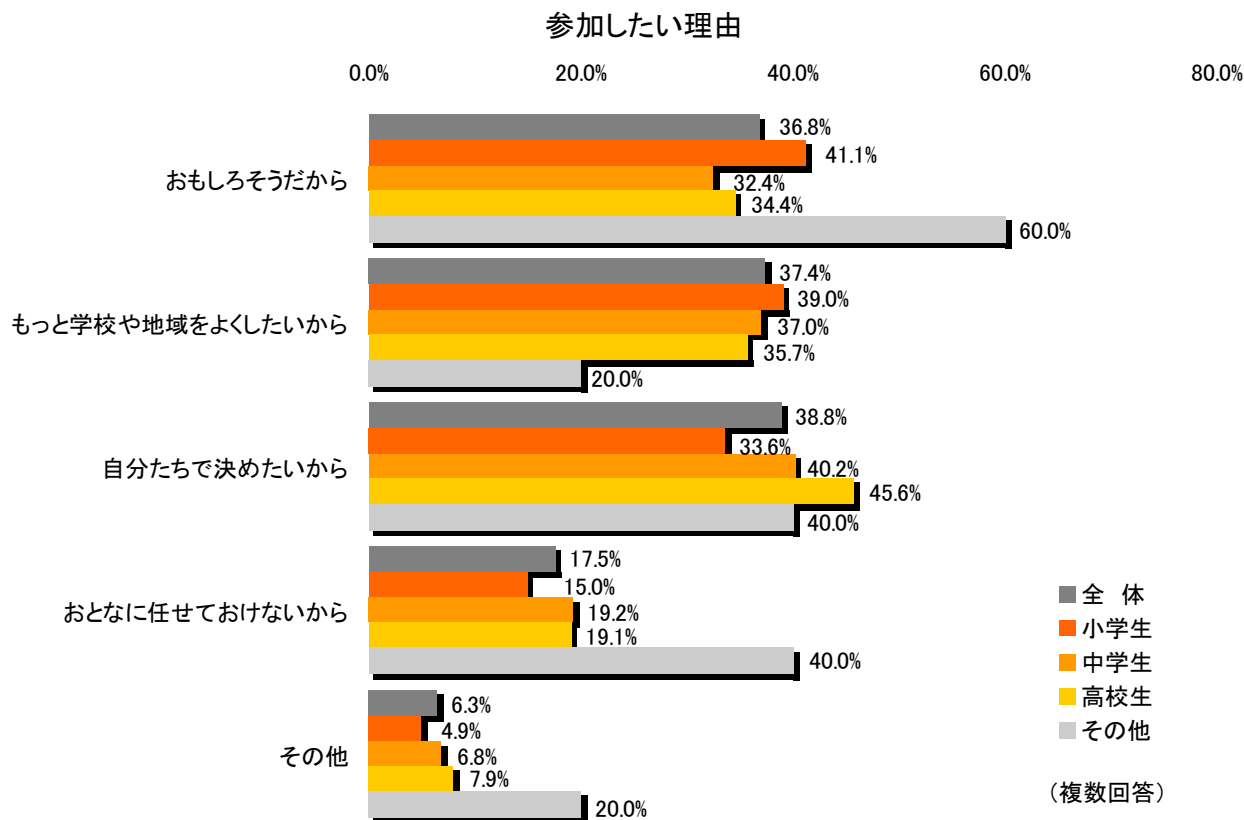
これを小・中・高別にみると、「面倒くさそうだから」と回答した子どもは、小学生では46.3%、中学生では66.3%、高校生では70.1%となっており、高校生は小学生を23.8ポイント上回っています。

一方、参加したいと思う理由については、全体では「自分たちで決めたいから」が38.8%で最も多く、ついで「もっと学校や地域をよくしたいから」が37.4%、「おもしろそうだから」が36.8%となっています。

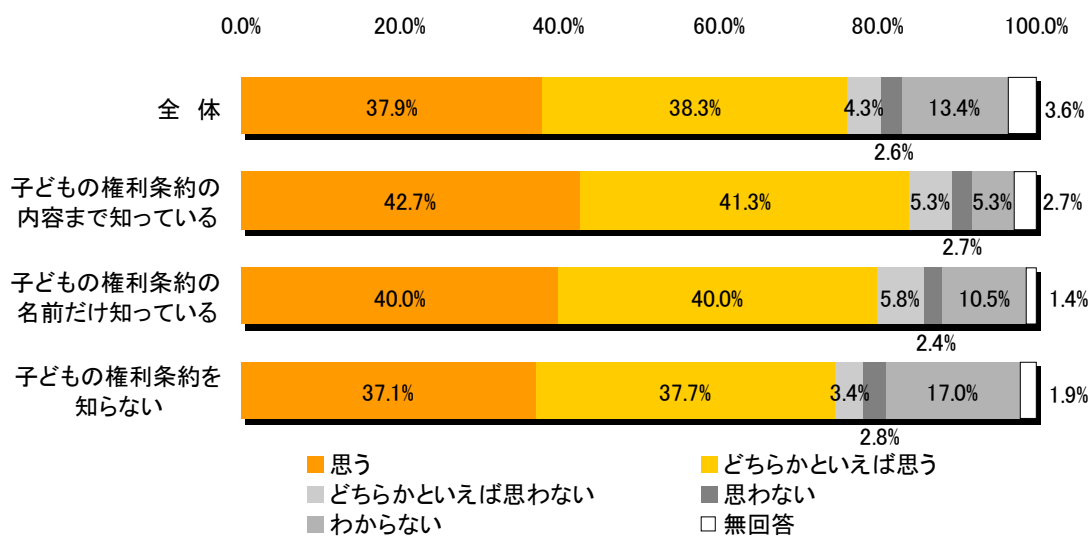
これを小・中・高別にみると、「おもしろそうだから」と回答した子どもは、小学生では41.1%、中学生では32.4%、高校生では34.4%となっており、小学生が最も多くなっています。また「自分たちで決めたいから」と回答した子どもは、小学生では33.6%、中学生では40.2%、高校生では45.6%となっており、中学生・高校生になるほど多くなっています。

学校や地域活動への参加意欲





子どもの意見の反映状況(今後)



5 子どもの権利についての考え方

5-1 子どもの権利条約の認知度

子どもの権利条約の認知度は、子どもは「名前も内容も知っている」が15.9%、「名前だけは知っている」が30.1%、「まったく知らない」が53.6%と半数を超えています。

これを小・中・高別にみると、「名前も内容も知っている」「名前だけは知っている」を合わせると、小学生では27.0%、中学生では45.8%、高校生では67.9%となっており、高校生になるほど認知度は高くなっていますが、「まったく知らない」が小学生で72.3%にもものぼっています。

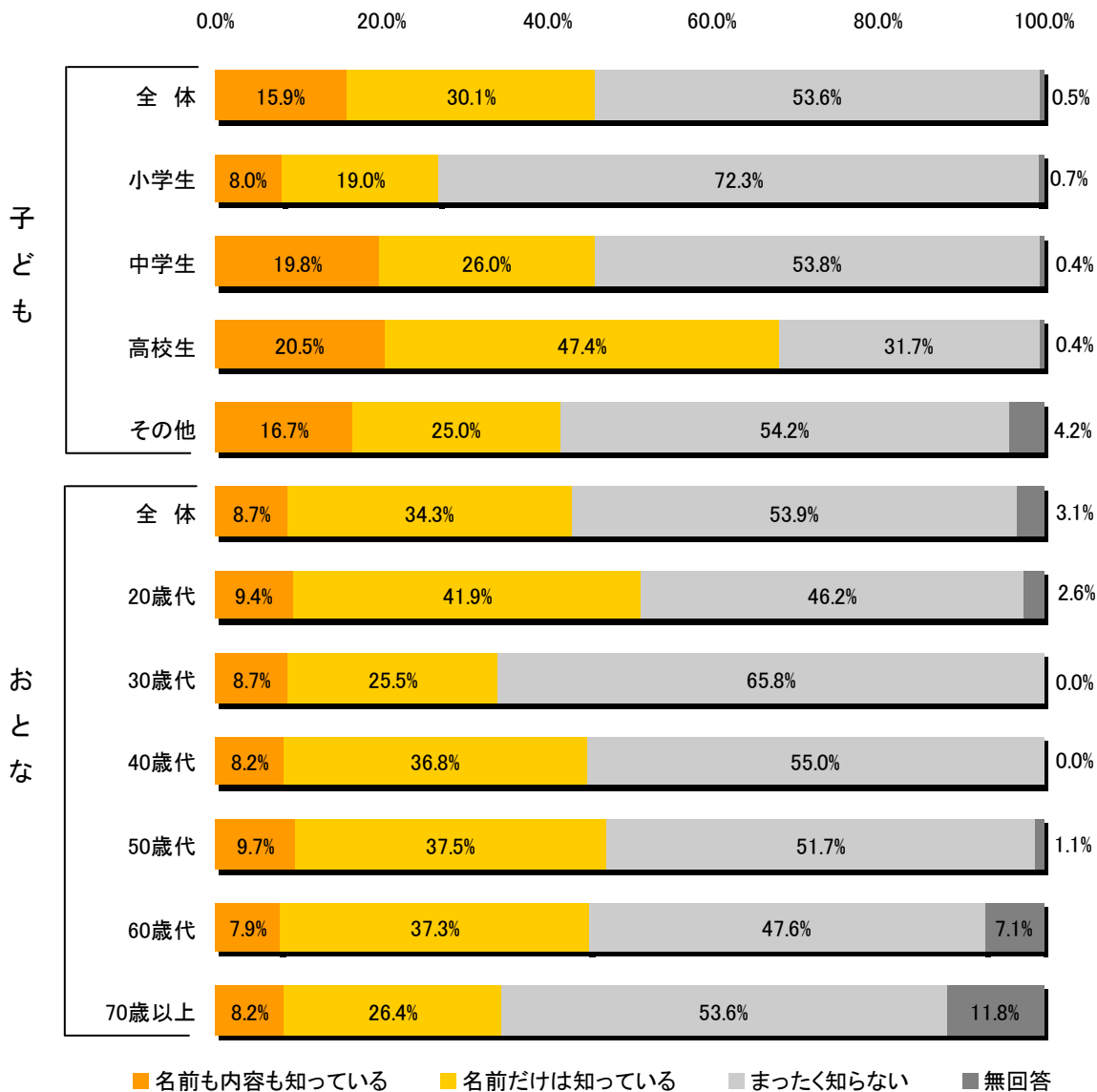
一方、おとなは「名前も内容も知っている」が8.7%、「名前だけは知っている」が34.3%、「まったく知らない」が53.9%と子どもと同様に半数を超えています。

また、子どもの権利条約の認知手段は、子どもは「学校（授業、学級通信など）」が77.2%で最も多く、ついで「テレビ、新聞、雑誌など」が23.8%となっており、一方で「県や市町村の広報紙」は4.6%と低く、子ども向けの広報が十分でないことがうかがえます。

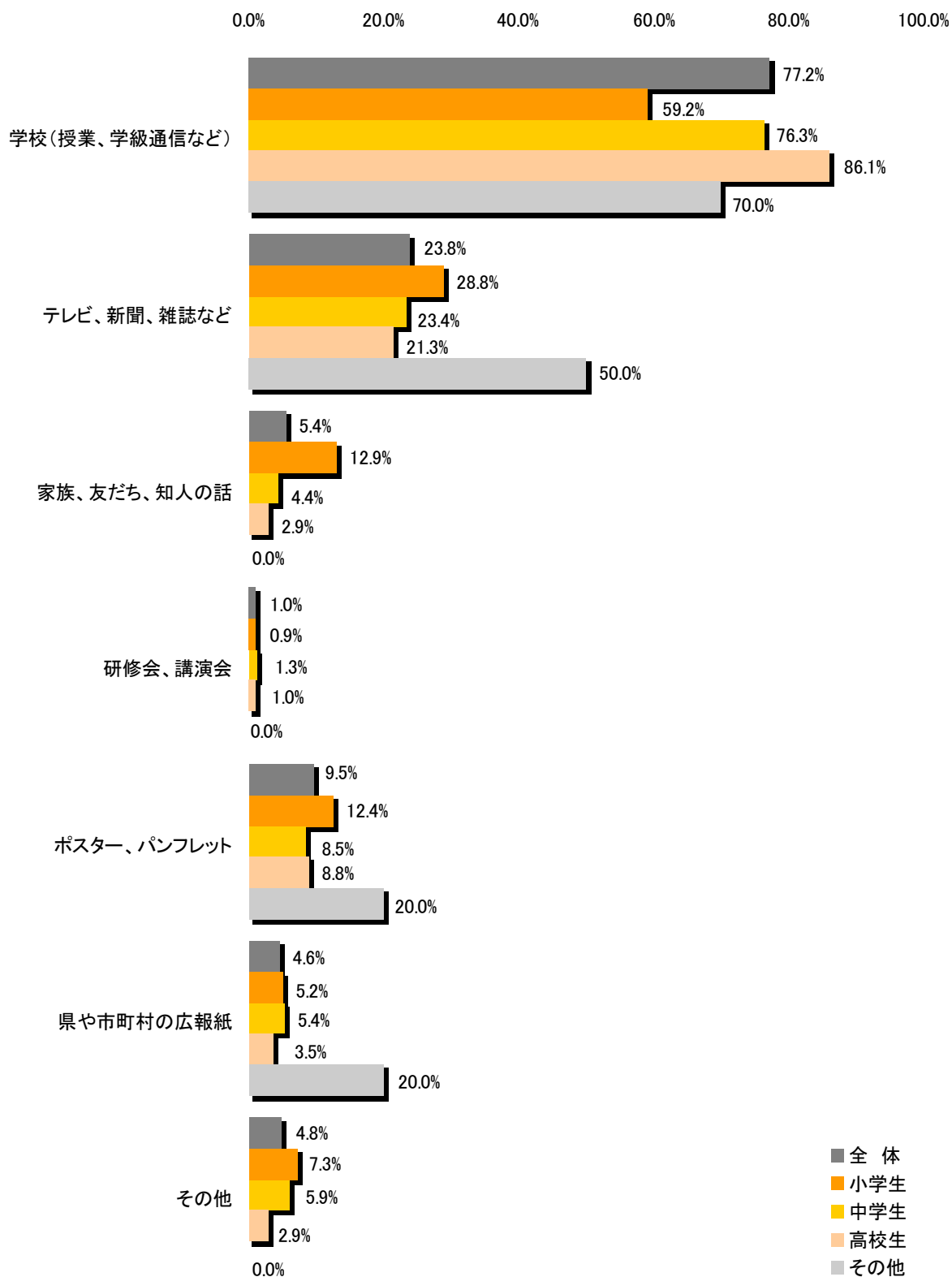
これを小・中・高別にみると、「学校（授業、学級通信など）」と回答した子どもは、小学生では59.2%、中学生では76.3%、高校生では86.1%となっており、中学生・高校生になるほど高くなっています。

一方、おとなは「テレビ、新聞、雑誌など」が58.4%で最も多く、ついで「県や市町村の広報紙」が30.8%となっており、おとなに対しては、広報活動が子どもの権利条約の認知に有効な手段であることがうかがえます。

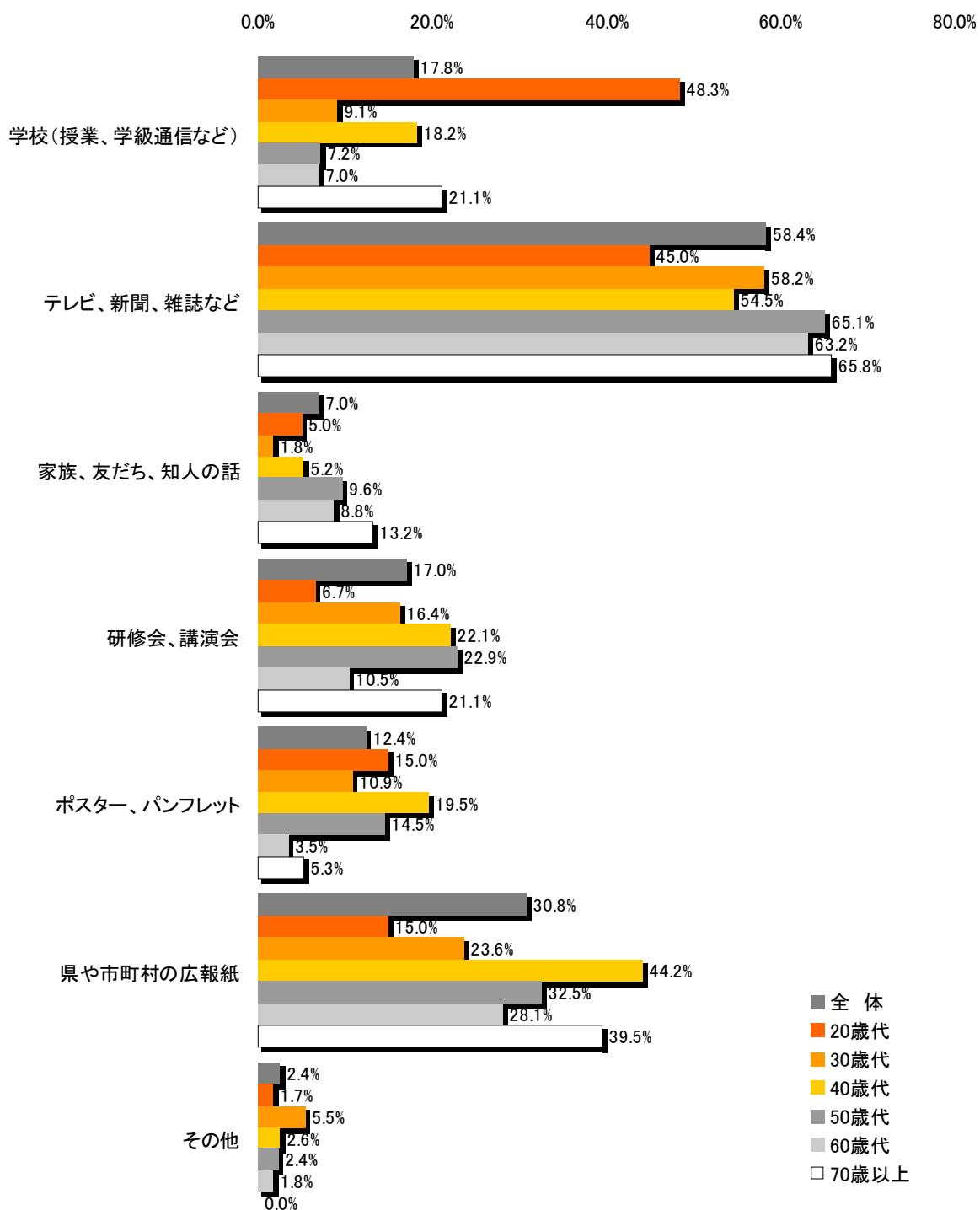
子どもの権利条約の認知度



子どもの権利条約の認知手段(子ども)



子どもの権利条約の認知手段(おとな)



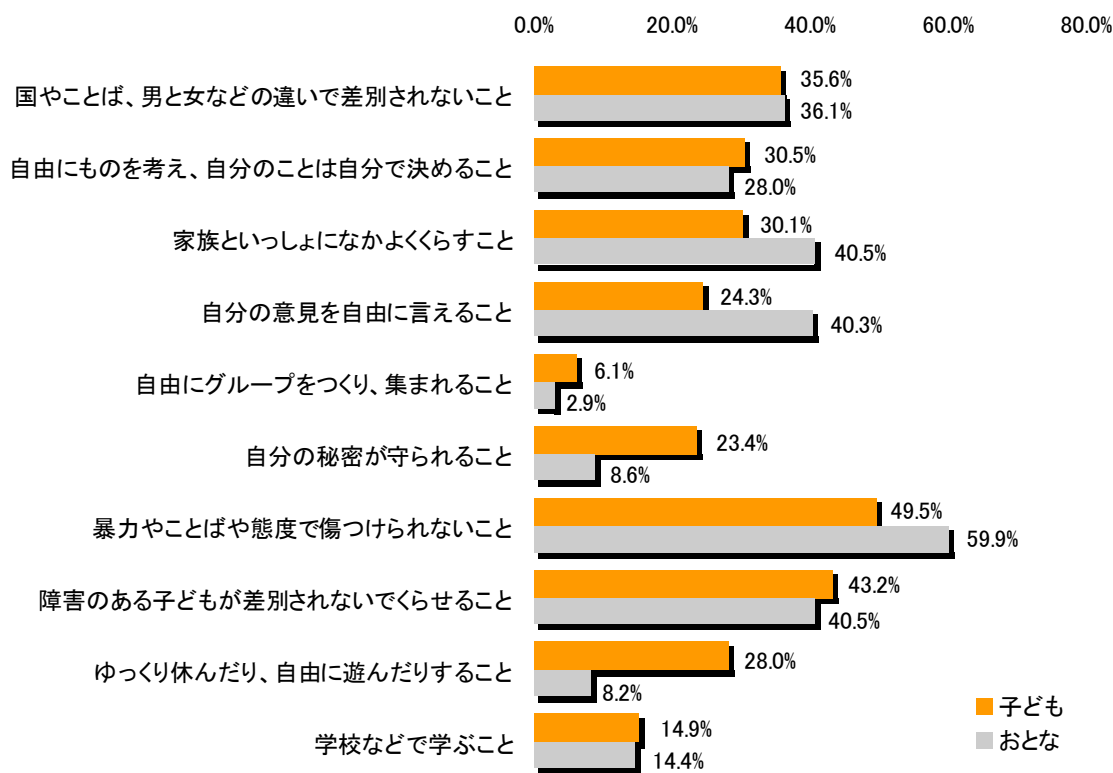
5-2 今、特に必要な子どもの権利

子どもの権利の中で、今、特に必要とされる権利については、「暴力やことばや態度で傷つけられないこと」が、子どもは49.5%、おとなは59.9%でともに最も多く、ついで「障害のある子どもが差別されないでくらせること」が、子どもは43.2%、おとなは40.5%となっており、共通して重視すべき権利と考えられています。

一方、「ゆっくり休んだり、自由に遊んだりすること」については、子どもは28.0%であるのに対して、おとなは8.2%で、子どものほうが19.8ポイント上回っており、また「自分の秘密が守られること」については、子どもは23.4%であるのに対して、おとなは8.6%で、子どものほうが14.8ポイント上回っています。

また、「自分の意見を自由に言えること」については、子どもは24.3%、おとなは40.3%で、子どものほうが16ポイント下回っています。

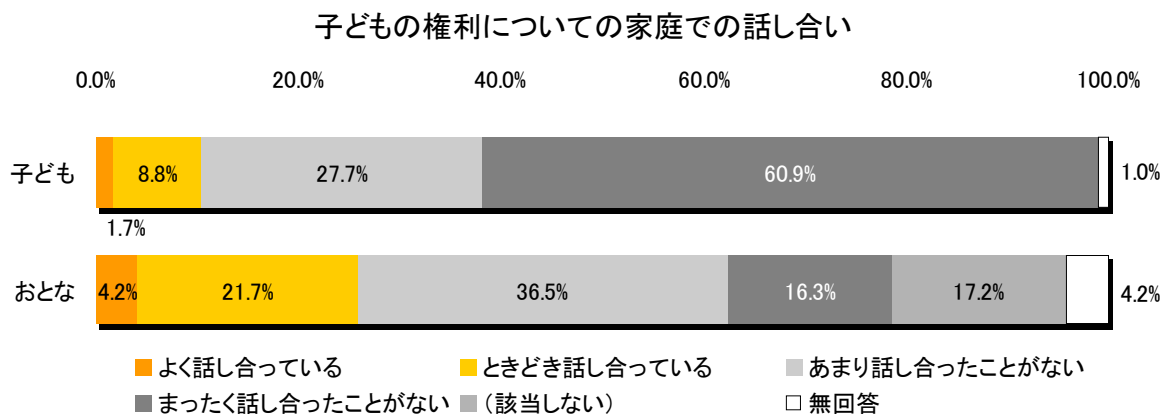
今、特に必要とされている子どもの権利



(3つまでの複数回答)

5-3 家庭における話し合い

子どもの権利について、家庭で話し合っているかについては、「まったく話し合ったことがない」「あまり話し合ったことがない」と回答した人を合わせると、子どもは88.6%、おとなは52.8%で、子どものほうが35.8ポイント上回っており、子どもの権利について親子であまり話し合っていない状況がうかがえます。

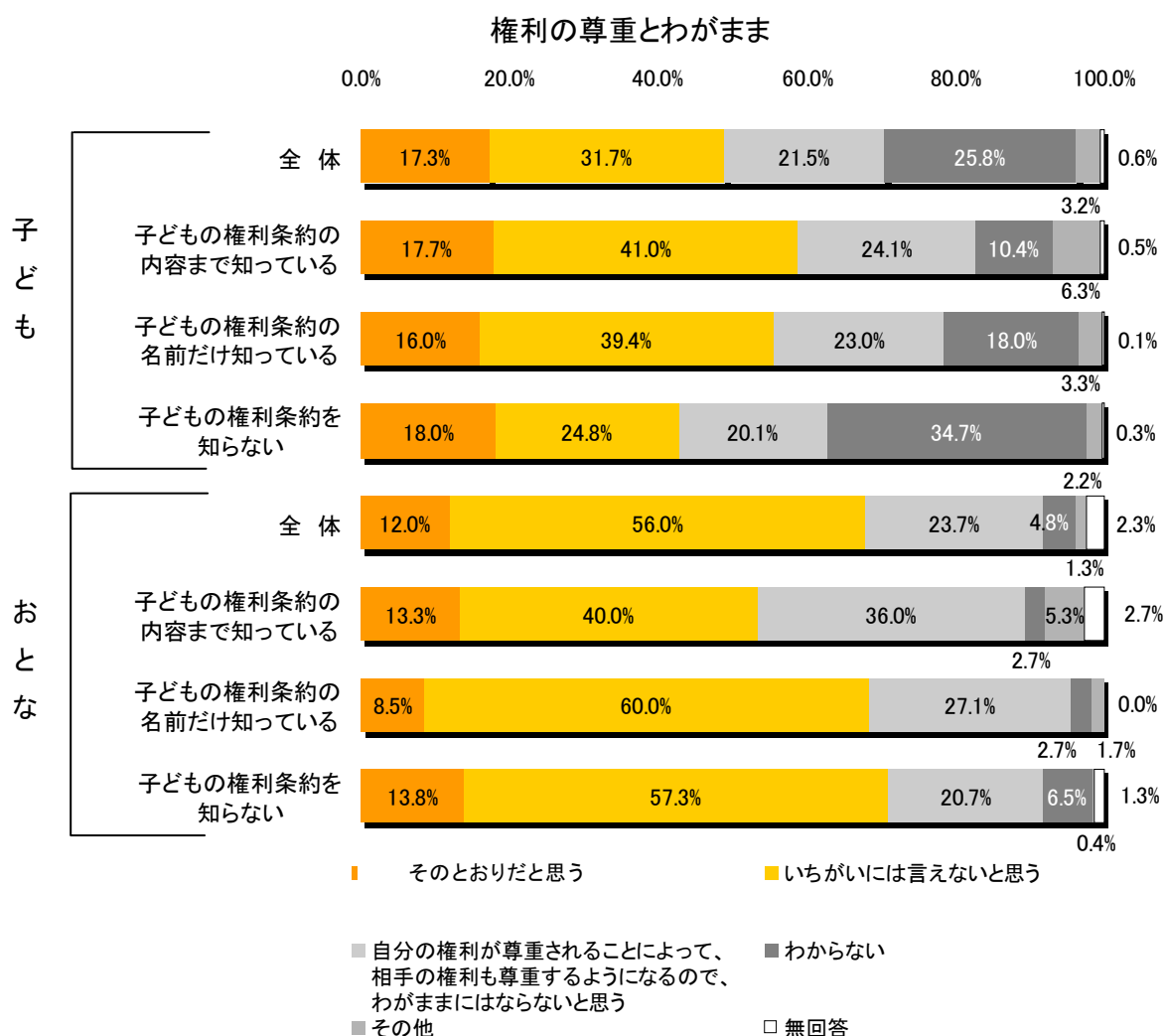


5-4 子どもの権利とわがまま

子どもの権利ばかりを尊重すると、子どもがわがままになるという意見については、「いちがいには言えない」と回答した人は、子どもは31.7%、おとなは56.0%となっており、ともに最も多くなっています。

一方で、「わがままにはならないと思う」と回答した人は、子どもは21.5%、おとなは23.7%となっています。

これを子どもの権利条約の認知度別にみると、条約の内容まで知っている人で「わがままにはならないと思う」と回答した人は、条約を知らない人に比べて、子どもで4ポイント、おとなで15.3ポイント高くなっています。

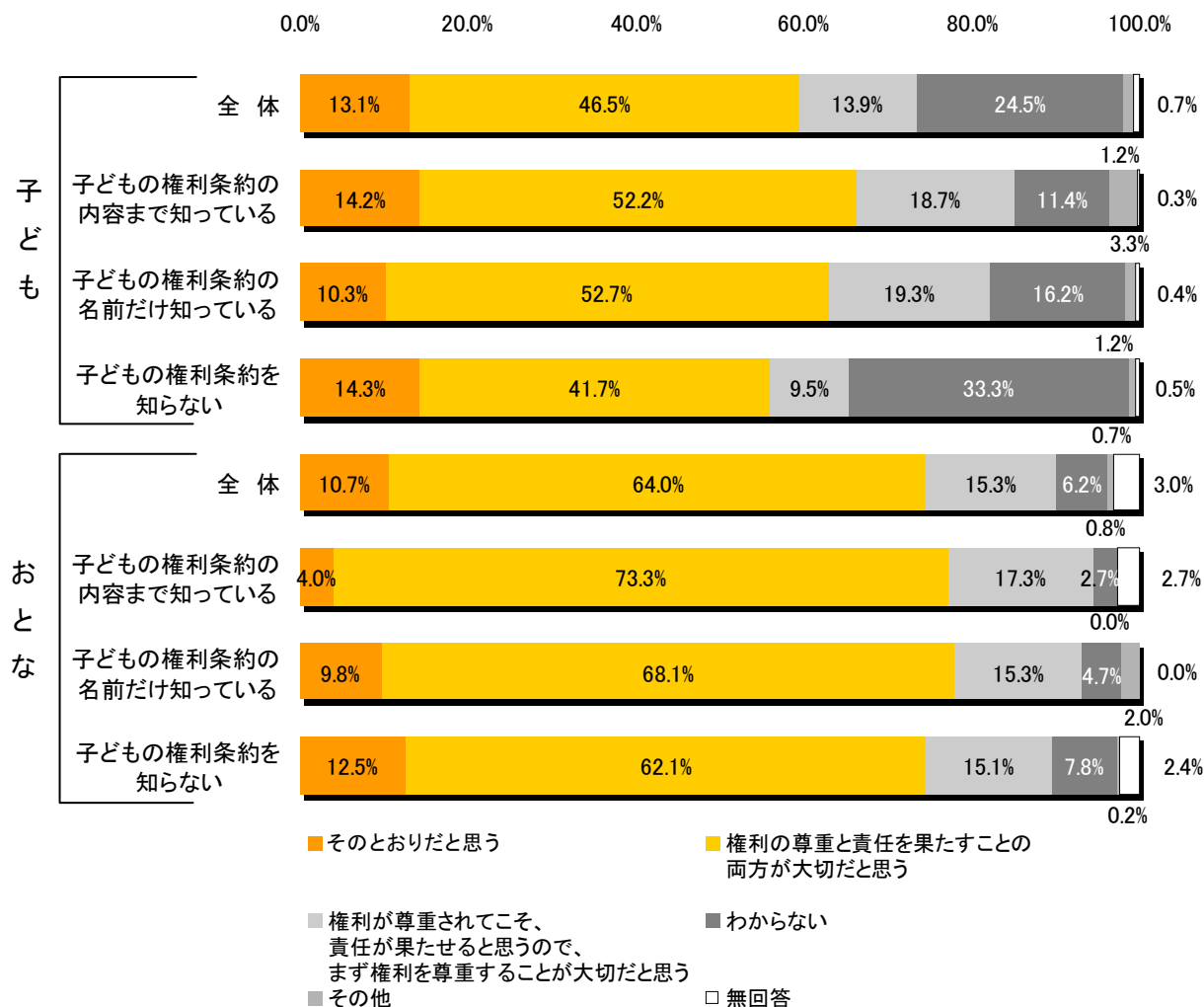


5-5 子どもの権利と責任

子どもには権利の尊重よりも、責任を果たす方が大切だという意見については、「両方が大切だと思う」と回答した人は、子どもは46.5%、おとなは64.0%となっており、ともに最も多くなっています。

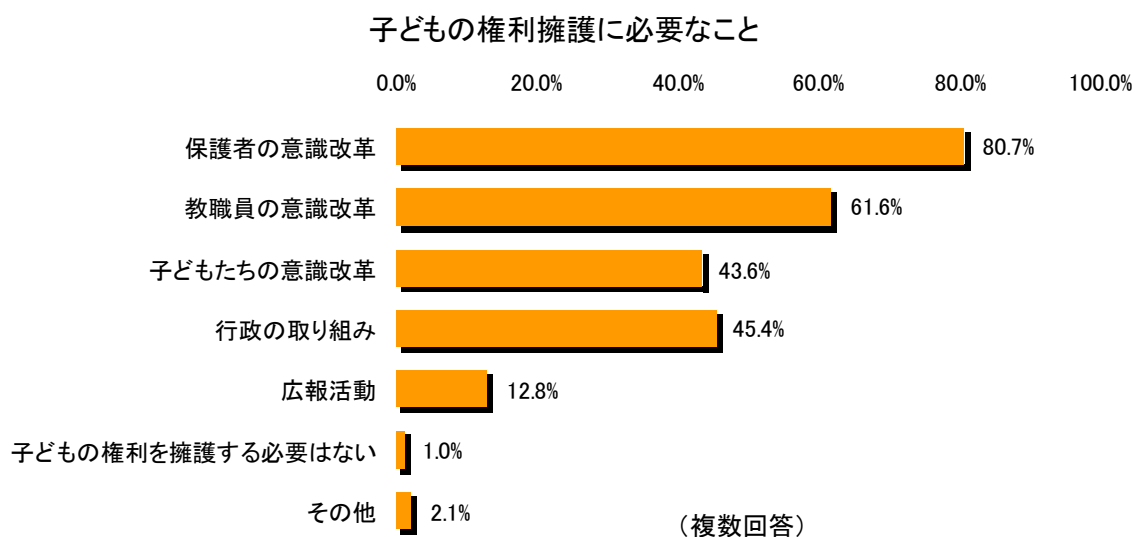
子どもの権利条約の認知度別にみると、条約の内容まで知っている子どもで「権利が尊重されてこそ責任が果たせるので、まず権利を尊重することが大切だと思う」と回答した子どもは、条約の内容を知らない子どもに比べて9.2ポイント上回っています。また、条約の内容まで知っているおとなで「そのとおりだと思う」と回答した人は、条約の内容を知らない人に比べて8.5ポイント下回っています。

権利の尊重と責任の遂行



5-6 子どもの権利擁護に必要なこと(おとな)

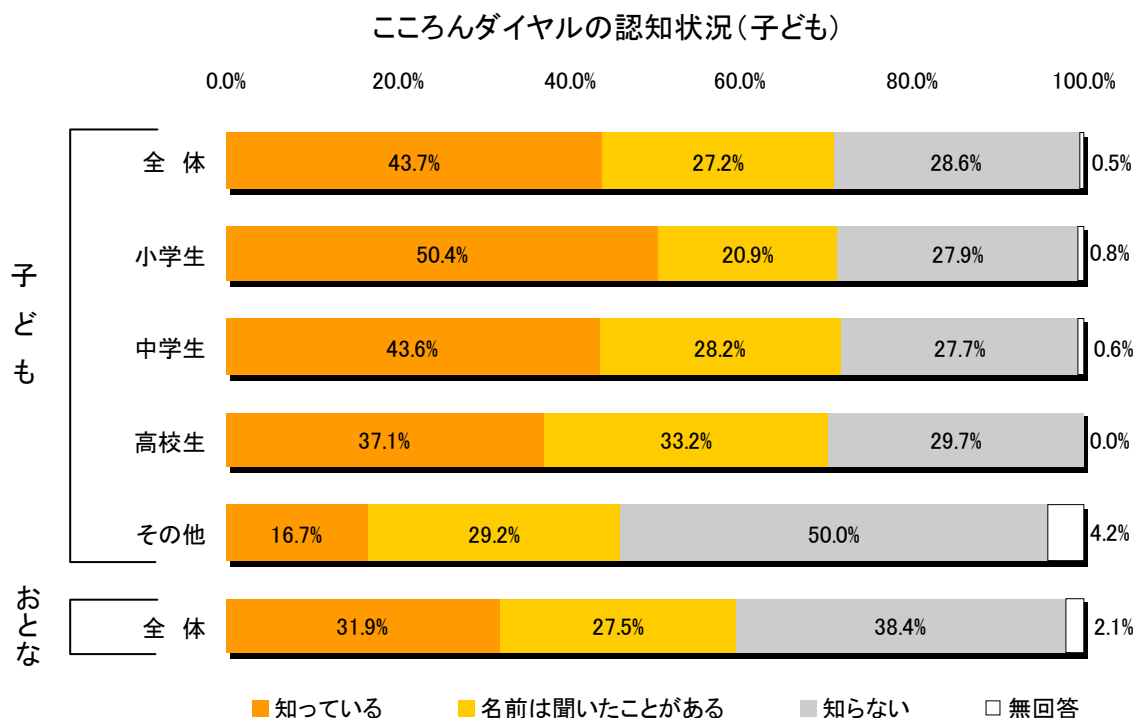
子どもの権利を擁護していくために必要なことについては、「保護者の意識改革」が80.7%で最も多く、ついで「教職員の意識改革」が61.6%、「行政の取り組み」が45.4%となっており、保護者や教職員など子どもに接する機会の多いおとなの意識改革が求められています。



5-7 電話相談室(こころんダイヤル)の認知度

子どもの悩みなどを相談する滋賀県青少年・子ども電話総合相談室(こころんダイヤル)について、「知っている」「名前は聞いたことがある」と回答した人を合わせると、子どもは70.9%、おとなは59.4%となっており、おとなに比べて子どもの方が認知度が高くなっています。

これを小・中・高別にみると、「知っている」と回答した子どもは、小学生では50.4%(435人)、中学生では43.6%(370人)、高校生では37.1%(279人)となっており、小学生では「知っている」が半数を超えています。



6 児童養護施設等に入所している子どもの調査結果の概要

児童養護施設、児童自立支援施設および情緒障害児短期治療施設に入所している子どもを対象とした調査票は、本編の子ども、おとなを対象とした調査票と整合性を図りつつ、一部選択肢の表現を修正および追加削除し、各施設を通じて調査を実施しました。

回収数が152件と少ないため、単純集計の結果から、その特徴を概観します。

6-1 回答者の基本属性

- 性別：男性61.8%、女性38.2%
- 年齢：回答者の年齢で多かったのは、13歳17.8%、14歳16.4%、15歳15.1%
- 就学状況：小学生25.7%、中学生50.0%、高校生20.4%、その他4.0%
- 入所期間：1年未満28.3%、1～5年未満37.5%、5～10年未満22.4%、10年以上10.5%

6-2 日常生活

(1) 安心できる場所の有無とその場所

- 安心できる場所が「ある」が87.5%、「ない」が11.2%となっています。
- 安心できる場所は、「自分の部屋」が56.4%で最も多く、ついで「父母の家」が44.4%、「友だちの家」が28.6%、「ゲームセンター・カラオケボックス」が23.3%となっています。（複数回答）

(2) 相談できる人の有無と相談相手

- 相談できる人が「いる」が77.0%、「いない」が21.1%となっています。
- 相談相手として、「友だち」が65.8%で最も多く、ついで「施設の先生」が43.6%となっています。一方「相談所の先生」は10.3%、「学校の先生」は14.5%と少なくなっています。（複数回答）

(3) 周囲からの愛情

- まわりから大切にされていると思うかについては、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせると42.8%となっています。

(4) おとなの傾聴姿勢

- 将来のことなど自分のことを決めるとき、おとなが意見を聞いてくれるかについては、「いつも聞いてくれる」「ときどき聞いてくれる」を合わせると81.0%となっています。

(5) 自己決定

- 自分で決めたいことについては、「服・ファッション」が48.0%で最も多く、つ

いで「将来のこと」が46.1%、「友だち」が41.4%となっています。(複数回答)

(6) プライバシー

- 日記や手紙、携帯電話のメールなどをおとなが無断で見ることについては、「子どもにもプライバシーがあるのだから、無断で見ないほうがいいと思う」が77.6%と多数を占めています。

(7) おとなからの体罰

- 親にたたかれてつらいと思ったことについては、「よくある」「ときどきある」を合わせると52.0%となっています。
- 家族以外のおとなにたたかれてつらいと思ったことについては、「よくある」「ときどきある」を合わせると42.1%となっています。
- 親が子どもをたたくことについては、「子どもが言うことを聞かないときは、たたくことも仕方がないと思う」が36.8%、「たたくことはあってはならないと思う」が35.5%となっています。
- 家族以外のおとなが子どもをたたくことについては、「たたくことはあってはならないと思う」が66.4%となっています。

6-3 学校生活や地域活動

(8) いじめ等つらいこと

- いじめなどつらくてどうしようもないことを人から言われたり、されたりしたことについては、「ある」が56.6%、「ない」が40.8%となっています。
- つらいことがあったとき、「生きているのがイヤになるくらいのつらい気持ち」が29.1%にのぼっています。
- そのときの対応としては、「誰にも相談できず、イヤな気持ちのままだった」が41.9%、「ほかの人に相談して、やめてもらおうとした」が31.4%、「相手に気持ちを伝えてやめてもらおうとした」が11.6%となっています。

(9) 学校に行きたくない経験

- 学校に行きたくないと思ったことについては、「ある」が80.9%、「ない」が17.8%となっています。
- 学校に行きたくない理由としては、「勉強のこと」が39.0%で最も多く、ついで「友だちのこと」が36.6%、「学校がつまらないから」が35.8%となっています。(複数回答)

(10) 自由な時間の必要性

- ゆっくり休んだり、遊んだり、自分の自由になる時間がほしいと思うかについては、「思う」「どちらかといえば思う」を合わせると80.9%となっています。

- 必要と思う理由としては、「学校の授業や行事で時間がない」、「安らぐ場所がない」がともに36.6%で最も多く、ついで「遊び場所がない」が30.1%、「施設のことで時間がない」が28.5%となっています。(複数回答)

(11) 学校や地域活動への意見表明

- 学校や地域活動について自分の意見を言える場があればその場に参加したいかについては、「どちらかといえば思わない」「思わない」を合わせると55.9%となっています。
- 参加したい理由としては、「おもしろそうだから」が47.3%で最も多く、ついで「自分たちで決めたいから」が36.4%となっています。(複数回答)
- 参加したくない理由としては、「面倒くさそうだから」が54.1%で最も多く、ついで「おもしろくなさそうだから」が44.7%となっています。(複数回答)

6-4 子どもの権利についての考え方

(12) 子どもの権利条約の認知度

- 子どもの権利条約を知っているかについては、「まったく知らない」が55.9%、「名前だけは知っている」が31.6%、「名前も内容も知っている」が11.8%となっています。
- 子どもの権利条約の認知手段については、「学校（授業、学級通信など）」が75.8%と多数を占め、ついで「テレビ、新聞、雑誌など」19.7%、「ポスター、パンフレット」13.6%となっています。(複数回答)

(13) 今、必要な子どもの権利

- 子どもの権利の中で、特に今必要とされている権利については、「暴力やことばや態度で傷つけられないこと」が44.1%で最も多く、ついで「家族といっしょになかよくくらすこと」が38.2%となっています。(複数回答)

(14) 子どもの権利についての話し合い

- 子どもの権利を施設で話し合っているかについては、「あまり話し合ったことがない」「まったく話し合ったことがない」を合わせて77.0%となっています。

(15) 子どもの権利とわがまま論

- 「子どもの権利ばかりを尊重すると、子どもがわがままになる」という意見については、「自分の権利が尊重されることによって、相手の権利も尊重するようになるので、わがままにはならないと思う」が25.0%、「いちがいいにはいけないと思う」が22.4%、「わからない」が28.3%となっています。

(16) 子どもの権利と責任論

- 「子どもには権利の尊重よりも、責任を果たす方が大切だ」という意見については、「権利の尊重と責任を果たすことの両方が大切だと思う」が37.5%、「権利が尊重されてこそ責任が果たされると思うので、まず権利を尊重することが大切だと思う」が17.8%、「わからない」が27.6%となっています。

(17) 電話相談室(こころんダイヤル)の認知度

- 滋賀県青少年・子ども電話総合相談室(こころんダイヤル)については、「知らない」が36.8%、「知っている」が34.9%となっています。

6-5 単純集計結果

問1 あなたの性はどちらですか。

	回答数	構成比
男性	94	61.8%
女性	58	38.2%
合計	152	100.0%

問2 あなたの年齢（平成16年1月1日現在）はおいくつですか。

	回答数	構成比
8歳	1	0.7%
9歳	2	1.3%
10歳	11	7.2%
11歳	14	9.2%
12歳	15	9.9%
13歳	27	17.8%
14歳	25	16.4%
15歳	23	15.1%
16歳	15	9.9%
17歳	16	10.5%
18歳	3	2.0%
合計	152	100.0%

問3 あなたは、次のどれにあてはまりますか。

	回答数	構成比
小学生	39	25.7%
中学生	76	50.0%
高校生	31	20.4%
無職	3	2.0%
その他	3	2.0%
合計	152	100.0%

問4 あなたが、施設に入所してからの期間はどれくらいになりますか。（平成16年1月1日現在）

	回答数	構成比
1年未満	43	28.3%
1年以上 5年未満	57	37.5%
5年以上 10年未満	34	22.4%
10年以上	16	10.5%
無回答	2	1.3%
合計	152	100.0%

問5 あなたは、居心地がよかったり、安心できる場所がありますか。

	回答数	構成比
ある	133	87.5%
ない	17	11.2%
無回答	2	1.3%
合計	152	100.0%

問5-1 「ある」と答えた人にお聞きします。それはどこですか。

	回答数	構成比
自分の施設	25	18.8%
自分の部屋	75	56.4%
父母の家	59	44.4%
祖父母の家	12	9.0%
学校	27	20.3%
学校の保健室	9	6.8%
塾・習い事の教室	0	0.0%
友だちの家	38	28.6%
児童館・図書館	12	9.0%
ゲームセンター・カラオケボックス	31	23.3%
コンビニ	9	6.8%
その他	11	8.3%
対象者数	133	100.0%

(複数回答)

問6 あなたは、不安や悩みを抱えている時、相談できる人がいますか。

	回答数	構成比
いる	117	77.0%
いない	32	21.1%
無回答	3	2.0%
合計	152	100.0%

問6-1 「いる」と答えた人にお聞きします。それは誰ですか。

	回答数	構成比
施設の先生	51	43.6%
父親	9	7.7%
母親	32	27.4%
きょうだい	32	27.4%
祖父母	4	3.4%
友だち	77	65.8%
学校の先生	17	14.5%
塾・習い事の先生	0	0.0%
相談所の先生	12	10.3%
その他	7	6.0%
対象者数	117	100.0%

(複数回答)

問7 あなたは、「まわりから大切にされている」と感じますか。

	回答数	構成比
思う	42	27.6%
どちらかといえば思う	44	28.9%
どちらかといえば思わない	26	17.1%
思わない	39	25.7%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

問8 将来のことなど自分のことについて決めるとき、おとなは、あなたの意見を聞いてくれますか。

	回答数	構成比
いつも聞いてくれる	46	30.3%
ときどき聞いてくれる	77	50.7%
あまり聞いてくれない	18	11.8%
まったく聞いてくれない	11	7.2%
合計	152	100.0%

問9 あなたは、どのようなことを自分で決めたいと思いますか。

	回答数	構成比
施設のきまり	53	34.9%
運動会・学芸会・文化祭などの施設行事	30	19.7%
習い事・塾	13	8.6%
服・ファッション	73	48.0%
親との面会・手紙のやり取り・電話	58	38.2%
施設に帰る時間	53	34.9%
友だち	63	41.4%
家への一時帰宅	50	32.9%
将来のこと（進学・就職など）	70	46.1%
とくにない	13	8.6%
その他	10	6.6%
対象者数	152	100.0%

(複数回答)

問10 あなたは、おとながあなたの日記や手紙、携帯電話のメールなどを無断で見ることについてどう思いますか。

	回答数	構成比
子どもにもプライバシーがあるのだから、無断で見ないほうがいいと思う	118	77.6%
子どものことが心配で見るのだから、仕方がないと思う	9	5.9%
見るのは当然だと思う	3	2.0%
わからない	19	12.5%
その他	3	2.0%
合計	152	100.0%

問11 あなたは、親にたたかれて、つらいと思ったことがありますか。

	回答数	構成比
よくある	40	26.3%
ときどきある	39	25.7%
ほとんどない	34	22.4%
まったくない	38	25.0%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

問12 あなたは、家族以外のおとなにたたかれて、つらいと思ったことがありますか。

	回答数	構成比
よくある	27	17.8%
ときどきある	37	24.3%
ほとんどない	34	22.4%
まったくない	53	34.9%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

問13 あなたは、親が子どもをたたくことについてどう思いますか。

	回答数	構成比
たたくことはあってはならない	54	35.5%
子どもが言うことを聞かないときは、たたくことも仕方がないと思う	56	36.8%
子どもが言うことを聞かないときは、たたくことは当然だと思う	8	5.3%
わからない	23	15.1%
その他	7	4.6%
無回答	4	2.6%
合計	152	100.0%

問14 あなたは、家族以外のおとなが子どもをたたくことについてどう思いますか。

	回答数	構成比
たたくことはあってはならない	101	66.4%
子どもが言うことを聞かないときは、たたくことも仕方がないと思う	14	9.2%
子どもが言うことを聞かないときは、たたくことは当然だと思う	7	4.6%
わからない	20	13.2%
その他	7	4.6%
無回答	3	2.0%
合計	152	100.0%

問15 あなたは、いじめなどつらくてどうしようもないことを人から言われたり、されたりしたことがありますか。

	回答数	構成比
ある	86	56.6%
ない	62	40.8%
無回答	4	2.6%
合計	152	100.0%

問15-1 「ある」と答えた人にお聞きします。その時、どんな気持ちでしたか。

	回答数	構成比
生きているのがイヤになるぐらいのつらい気持ち	25	29.1%
1ほどではないが、家に帰りたくなかったり、学校に行きたくないと感じるほどつらい気持ち	26	30.2%
我慢できるが、つらい気持ち	27	31.4%
その他	8	9.3%
合計	86	100.0%

問15-2 また、その時どうしましたか。

	回答数	構成比
相手に気持ちを伝えて、やめてもらおうとした	10	11.6%
他の人に相談して、やめてもらおうとした	27	31.4%
だれにも相談できず、イヤな気持ちのままだった	36	41.9%
その他	10	11.6%
無回答	3	3.5%
合計	86	100.0%

問16 あなたは、学校に行きたくないと思ったことはありますか。

	回答数	構成比
ある	123	80.9%
ない	27	17.8%
無回答	2	1.3%
合計	152	100.0%

問16-1 「ある」と答えた人にお聞きします。それはどんな理由があったからですか。

	回答数	構成比
友だちのこと	45	36.6%
先生のこと	36	29.3%
家庭のこと	12	9.8%
施設のこと	15	12.2%
勉強のこと	48	39.0%
疲れていたから	38	30.9%
学校がつまらないから	44	35.8%
なんとなく	23	18.7%
その他	20	16.3%
対象者数	123	100.0%

(複数回答)

問17 あなたは、もっとゆっくり休んだり、遊んだり、自分の自由になる時間がほしいと思いますか。

	回答数	構成比
思う	113	74.3%
どちらかといえば思う	10	6.6%
どちらかといえば思わない	7	4.6%
思わない	6	3.9%
わからない	13	8.6%
無回答	3	2.0%
合計	152	100.0%

問17-1 「思う」、「どちらかといえば思う」と答えた人にお聞きします。それはなぜですか。

	回答数	構成比
学校の授業や行事で時間がない	45	36.6%
施設のことなどで時間がない	35	28.5%
塾や習い事で時間がない	1	0.8%
部活動や、スポーツ少年団で時間がない	18	14.6%
遊び場所がない	37	30.1%
安らぐ場所がない	45	36.6%
その他	17	13.8%
対象者数	123	100.0%

(複数回答)

問18 あなたは、学校や地域の活動について自分の意見を言える場があれば、その場に参加したいと思いますか。

	回答数	構成比
思う	41	27.0%
どちらかといえば思う	14	9.2%
どちらかといえば思わない	23	15.1%
思わない	62	40.8%
わからない	11	7.2%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

問18-1 「思う」、「どちらかといえば思う」と答えた人にお聞きします。それはなぜですか。

	回答数	構成比
おもしろそうだから	26	47.3%
もっと施設をよくしたいから	13	23.6%
自分たちで決めたいから	20	36.4%
施設の先生には任せておけないから	8	14.5%
その他	8	14.5%
対象者数	55	100.0%

(複数回答)

問18-2 「どちらかといえば思わない」、「思わない」と答えた人にお聞きします。それはなぜですか。

	回答数	構成比
おもしろくなさそうだから	38	44.7%
面倒くさそうだから	46	54.1%
塾や習い事でいそがしいから	2	2.4%
何も変わらないから	30	35.3%
施設の先生が決めることだから	8	9.4%
その他	14	16.5%
対象者数	85	100.0%

(複数回答)

問19 あなたは、「子どもの権利条約」を知っていますか。

	回答数	構成比
名前も内容も知っている	18	11.8%
名前だけは知っている	48	31.6%
まったく知らない	85	55.9%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

問19-1 「名前も内容も知っている」、「名前だけは知っている」と答えた人にお聞きします。それはどのように知りましたか。

	回答数	構成比
学校（授業、学級通信など）	50	75.8%
テレビ、新聞、雑誌など	13	19.7%
家族、友だち、知人の話	5	7.6%
研修会、講演会	5	7.6%
ポスター、パンフレット	9	13.6%
県や市町村の広報紙	1	1.5%
その他	10	15.2%
対象者数	66	100.0%

（複数回答）

問20 あなたは、つぎのような子どもの権利の中で、特に今必要とされている権利は何だと思いますか。

	回答数	構成比
国やことば、男と女などの違いで差別されないこと	48	31.6%
自由にものを考え、自分のことは自分で決めること	45	29.6%
家族といっしょになかよくくらすこと	58	38.2%
自分の意見を自由に言えること	38	25.0%
自由にグループをつくり、集まれること	15	9.9%
自分の秘密が守られること	37	24.3%
暴力やことばや態度で傷つけられないこと	67	44.1%
障害のある子どもが差別されないで暮らせること	55	36.2%
ゆっくり休んだり、自由に遊んだりすること	56	36.8%
学校で学ぶこと	21	13.8%
対象者数	152	100.0%

（3つまでの複数回答）

問21 あなたは、子どもの権利について、施設で話し合っていますか。

	回答数	構成比
よく話し合っている	5	3.3%
ときどき話し合っている	29	19.1%
あまり話し合ったことがない	40	26.3%
まったく話し合ったことがない	77	50.7%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

問22 あなたは、「子どもの権利ばかりを尊重すると、子どもがわがままになる」という意見についてどう思いますか。

	回答数	構成比
そのとおりだと思う	31	20.4%
いちがいには言えないと思う	34	22.4%
自分の権利が尊重されることによって、相手の権利も尊重するようになるので、わがままにはならないと思う	38	25.0%
わからない	43	28.3%
その他	6	3.9%
合計	152	100.0%

問23 あなたは、「子どもには権利の尊重よりも、責任を果たす方が大切だ」という意見についてどう思いますか。

	回答数	構成比
そのとおりだと思う	22	14.5%
権利の尊重と責任を果たすことの両方が大切だと思う	57	37.5%
権利が尊重されてこそ、責任が果たせると思うので、まず権利を尊重することが大切だと思う	27	17.8%
わからない	42	27.6%
その他	3	2.0%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

問24 あなたは、子どもの悩みなどを相談できる、滋賀県青少年・子ども電話総合相談室（こころんダイヤル）があるのを知っていますか。

	回答数	構成比
知っている	53	34.9%
名前は聞いたことがある	42	27.6%
知らない	56	36.8%
無回答	1	0.7%
合計	152	100.0%

●子どもの権利や子どものことについて、あなたが思われていることを自由にお書きください。

	回答数	構成比
記述あり	51	33.6%
合計	152	100.0%

7 自由意見記述

7-1 意見内容の分類

調査票には、子どもの権利や子どものことについて自由に記述してもらい欄を設け、県民の意識を把握しました。そして、その内容を分類したところ、子どもでは「権利全般」や「虐待・暴力」に関する記述が多く見られました。また、おとなでは「子育て」に関する記述が多くなっていました。なお、意見の分類にあたっては、一人の意見で複数の項目にわたっていたものは、それぞれの項目でカウントしています。

次ページから、主な意見について分類項目ごとに掲載していますが、意見については、要点を抜粋して掲載していることがあります。

分類項目	子ども	おとな	施設の子ども	合計
虐待・暴力	166	30	7	203
しつけ	63	29	5	97
意見表明・参加	67	13	10	90
自己決定	66	6	11	83
居場所・余暇	85	15	4	104
プライバシー	40	1	6	47
学校・教育	93	28	4	125
いじめ・不登校	96	9	5	110
差別・障害者	74	1	2	77
安心・安全	36	6	5	47
子育て	53	91	0	144
子どもの権利全般	187	45	8	240
その他	134	58	16	208
合計	1,160	332	83	1,575

7-2 主な意見内容

6-2-1 子ども

■虐待・暴力について

- 自分の子どもに暴力をふるったり、ごはんをたべさせなかったりする親の気持ちがわかりません。その影響で、未成年の犯罪も増えてきていると思います。私と同じぐらいの歳の子が犯罪を起こしているということは、すごく恐いことです。年齢は関係なく犯罪はダメなものだけど、未成年はこれからの長い人生があるので、そういう犯罪が減るように良い環境を作っていかなければならないと思います。
- 親を選んで子どもは生まれてこれないし、親の離婚などで環境が変わっていく子どもがどんどん増えていく。せめて、小さな子どもたちが暴力や貧乏なことがないように、大人の八つ当たりの道具にされないことがないように、国や市や学校が変わってくれることを望みます。
- 子どもが言うことを聞かないからといって、虐待するのもいけないし、逆に、甘やかしすぎるのもどうかと思います。やはり、一番大切なのは、大人も子どももみんな人権や権利というものがあるのですから、それをお互いに尊重しあうことだと思います。人権とは、人が生まれながらにして持っている人としての権利です。やはり、それが一番大事だと私は思います。
- 保育所、保健センター、警察などが、もっと協力しあって、少しでも虐待が減れば良いと思います。逆に、親が過保護になり過ぎて、子どもを束縛するのも子どもが自分の意見を言えなかったりするるので、良くないと思います。
- 権利と言われていますが、尊重しすぎるのも良くないと思います。少年犯罪が増加しているのは、今の大人の見本が良くないという理由もあると思います。大人の犯罪があるのに、少年の犯罪がなくなることがあるはずがありません。大人はしている事と言っている事が違います。
- みんな一人ひとり、命をもらった大切な人なのに、お父さん、お母さん、友だちなどの人に、虐められるのはとても悲しいことです。
- なぜ、自分の子どもなのに、暴力をふるったりするのか、私には全く想像が付きません。せっかく、頑張って産んだんだから、もっと大切に育ててあげたらいいのに... と、よく思います。私は大人だから偉い！とか、そういうのじゃなくて、子どもの意見もしっかり聞いていけば、この世の中は、もっと平和になるんじゃないかな、と思いました。
- 社会的に弱者の立場にある子どもの権利は守られる必要があると思います。また、日本でも虐待などで、子どもの権利が侵害される事があるので、法制化の必要が色々あるだろうと思います。
- 最近、子どもが虐待を受けているというニュースを聞くことが多い。母親とか父親はそこまでするのだろうかと思う。子どもは好きで、うるさくしているわけではないのに...。やっぱり、かまってもらえるとうれしいからだと思うのだけれど。子どもが自由に元気に、そして、幸せに暮らせるだけで良いと思う。それをしようと思うと、親がちゃんと協力しなくてはあげなければと思う。笑顔一杯で、元気一杯な子どもだらけになったらいいなあと思う。
- 子どもの権利条約というのを、はじめて知りました。最近では、イジメや家庭内暴力（虐待）など、沢山のことで話題になっていますが、もっと、大人は一人ひとりの子どもが、幸せに暮らせるようにしないといけないと思います。なぜ、大人が自分の

子どもに暴力をふるうのか、不思議でたまりません。これからの世の中を、幸せに暮らせるように、イジメや虐待をなくして欲しいです。

- 私は、「虐待防止DAY」というのが、出来たら良いと思う。子どもがいる親は必ず、その日の仕事を休みにし、地域の集会場に子どもと一緒に集まり、虐待チェックと子どもQ&Aコーナーみたいなのを設けると良いと思う。さらに、子どもが日頃から考えていることを、大人と意見交換できたら良いと思う。
- 子どもは親のものではないし、個人として見るべきだと思う。ニュースで毎日のように聞く虐待などもあってはならないことなのに、自分たちの都合や、感情で暴力をふるったりするのは、聞いているだけでも腹立たしいことだ。虐待をするぐらいなら、はじめから産まなければ良いと思う。
- ニュースで、前に、子どもが虐待されたり、食べ物を食べさせてもらえなかったりされていたって言っていたが、私は、自分の父母がそんなことだったら、どうすれば良いか、わからなくなるかも知れない。その人には、くつろぐ場所もなかったのだし、私が一番くつろげる家で、そんな虐待をされたら、最悪だと思う。
- 子どもにも、それぞれ、自由に幸せになる権利があります。それが、最も身近である親によって侵害されてしまうのは、良いことではありません。その原因として挙げられることは、望まれない子どもが多くなってきていることだと思います。自分たちの子どもなのに、邪魔者扱いで暴力をふるったりする。これに対しての解決策は、親自身がしっかり、子どものことを考え、一人の人間として、尊重していくことだと思います。
- 子どもの権利条約があるけれど、内容までみんな本当に知っているのかなと思う。大人がよく知らないから虐待が起こったりするんじゃないかなあ。条約を知っていてもしてしまう人が多いと思うんだけど。とにかく、子どもの権利条約について、もっとみんなに知ってもらいたいと思う。

■しつけについて

- 子どもの好き勝手にやっていたら、いつかわがままになって暴力をふるう大人になってしまうので、親がしっかり育てなければいけないと思う。
- 私の母親はすぐ「小学生やろ」「子どもなんやから」と言います。私は、すごく傷つきますが、いつも考え直して我慢しています。あと、すぐ口げんかになるから、あまり話をしないようにしています。私も私なりに考えているのに「子ども」「小学生」と言われると何だか生きていても、仕方ないと思ってしまいます。特に、言われた後、言い返すと「母親に向かって!!」とすぐ自分の立場？を私に押しつける時、そう思ってしまいます。でも、最近、自分が落ち着けるものを見つけたので、頑張って生活しています。「小学生」「子ども」そんなふうに言う母親も差別していることになるのかな。
- 今の大人は、子どもをあまり叱らないと思います。地域の人がみんな地域の子どもの見守っていくことが大切です。そして、悪い事、危ない事をした時は、よその子どもであれども、きつく叱り、良い事をした時は、ほめてあげるべきです。
- 最近の親は、子どもを甘やかし過ぎで、子どもが何をしていても、見て見ぬふりなどをしていて、見ていて腹立たしくなってくる。だから、最近の子どもは、わがままな奴ばかりで、自己中心的なんだと思う。子どもの権利を尊重することは、良いことだと思うが、甘やかしすぎるのもどうかと思う。
- 親が悪いのに、何でも私たちのせいにする。大人って最悪な生き物だと思う。身勝手すぎる。そうでない大人もいるが、10人に6人か7人は自分勝手だと思う。 だか

ら、一度、いや何度も死にたい、消えたい、この世を去りたい、とか思った。大人って、自分勝手過ぎる。だから大人は嫌い。

- 最近、街中で見かける子（2・3才～小・中学生）の態度を見ていると、「将来、どうなるのだろう。」と思います。子どもの権利を守りながら、しっかりしつけるということは、難しい事なのかもしれませんが、親とか、しっかりして欲しい。私が、小さい頃は、「こらっ」って言って軽く頭をたたかれたのになあ。しつけと暴力の差がわからない大人が増えたせいで、子どもに手を出しにくくなっているのでしょうか？子どもの権利や自由をどうのこうの言う前に、「自由とわがまま」の違いをしっかりと教えることのできる大人を増やすべきだと思います。良い大人、普通の大人がほとんどですが、中には、ただ歳をくっただけの、「自由とわがまま」の区別がついていない親とか大人も、よく見かけるので私も気を付けます。
- 僕たちの言葉と大人の言葉の同じ言葉でも意味が違う時がある。僕は、子どもの言葉で、物事を考えて叱って欲しいと思います。本当に、大人は良くても子どもがすると、ものすごく叱る時があります。ものすごく腹が立ちます。
- 大人は子どもが小さい時から、よくしゃべったり、遊んであげて、怒る時は怒り、ほめる時はほめてあげれば良いと思う。すると、子どもは「周りの人から大切にされているのだな」と思い、自分の周りの人にも優しくすると思う。
- 子どもは親に叱られて、悪い事と良い事の判断や、ものごとの限度、それから、相手の気持ちになれたりできるので、子どもを甘やかして欲しくない。
- 私のまわりの友だちを見て感じることは、親が子どものことに対して干渉しすぎ！！だから、みんな親がうっとうしくて素直に言うことを聞かない。ほったらかしにしているのもダメだけれど、もうちょっと子どもを信用して欲しい。子どもは大人の持ち物ではないのだから、子どもが自分の思い通りにならないと、手をだしたりうるさく言ったりするのは、おかしいと思う。大人の叱り方ひとつで、子どもは良くも悪くもなる。そんなこともわからない大人が多すぎる。
- 子どもの権利も大人の権利と同じなのかな？と思います。大人に「○○をやりなさい」と言われて、たまたま忘れていて、言われたことをしなかったりすると、叱ったりするけど、子どもに頼まれた事を忘れると、色々と言訳をしてきて、自分たちは子どもを叱るのに、子どもには親を叱ったりなんてできないから、これはどうなんだろう？と思った。
- 子どもの権利というものが本当に必要なのかと思う。一般的な家庭で、きちんとしたしつけがなされていれば、権利などは大人になってから、ゆっくり考えればいいはずだ。家庭をどうにかするべきであり、子どもに権利を与えれば解決するものではないと思う。
- 子どもの権利は確かに大切だとは思いますが、子どもを育てる親の教育の方が大切だと思う。よくスーパーとかで騒いでる子どもをよく見ますが、その子の親はほとんど注意をしない。最近では子どもに手を出す事は暴力だといってる人がいるけど、そんなんだから子どもが言うことを聞かなくなってしまう。

■意見表明・参加について

- 大人は子どもを自分の行動に責任をもてるように育てて、さらに、大人はしっかりとしたアドバイスをしていくべきだと思います。子どもにも権利はあるが、それを逆手にとって、大人の意見を無視し、したい放題してはいけません。つまり、自分の意見や考えをしっかりと持っていることが、大切だと思います。

- 子どもの権利なども大切かもしれないけれど、一人の人間として見てあげて欲しい。一人ひとりが自分の意志をちゃんと持っているのだと。
- 確かに、子どもの権利は大切だと思います。子どもがわがままになると、大人が困ると思います。でも、子どもの権利を考えないのも困ります。僕なんて、まだまだ人間の屑かもしれません。でも、僕たちの意見も聞いて欲しいと思います。
- ちゃんと子どもとしての権利がある、ということだから馬鹿にしないでほしい。しっかり勉強ができる、自分の意見が言える、そんな環境をつくって欲しい。
- 先生に自分の意見を言えない。言う機会があっても、思っていることが言えない。
- 子どもの意見を聞かず、大人は、大人のやり方だけで、やっている人がいると思う。大人の意見も大事だけれど、子どもの意見も聞いてあげるのが良いと思う。大人の話に（色々な問題に）子どもは入れてもらえない。入ろうとするとすぐ怒る。子どもの意見を、子どもは聞いて欲しいと思う。
- 子どもだからといって、頭ごなしに、あれしたらダメとか、これしたらダメとか、今、子どもだからできることもあるのについて思います。親の言うことばかり聞くのではなく、自分の意志で、しっかり言えることがあるのが良い。
- 子どもの権利条約なんてものは、まあ、意見は聞くが、結局、聞くだけのものに過ぎないってことだ。子どもに選挙権を与える、とは言わないが、地域社会の中のことは、せめて子どもの参加できる部分を設けるべきだと思う。
- 子どもと大人は、物の考え方が違うものだと思うから、大人の見方ばかりで、子どもに接しないで、子どもに少しは合わせて欲しい。また、子どものことを考える時も、大人だけで考えずに、もっと積極的に子どもの考えも聞いて欲しいと思う。
- なんだかんだ言っても、大人が子どもの権利を決めているんじゃないですか。子どもの権利は大人だけじゃなくて、子どももその権利を決めるのに参加してはいけないのですか？大人に勝手に権利を決められては、こっちだってたまりません。
- 子どもの意見だって、しっかり聞いて欲しいと思うし、大人の話子どもだって聞いているのです。大人が悪いことをしていたら、子どもは、それがかっこういいんだと思うこともあるし、「それはダメ」と子どものほうが、しっかりしているところもある。大人も子どももそれぞれ良いところを認め合って、尊重すればもっと楽しくなると思います。
- 子どもは大人が思うほど子どもではない。また、大人も自分らで思うほど大人ではない。子どもも大人も一人の「人間」であり、一人ひとりに権利というものがある。「子どものため」と言い、塾や家庭教師をつける親。それは、子どもの意見を聞いた上であろうか？「親の言うことだから」それは、間違っていると思う。子どもの人生は子どものものであり、子どもは大人の所有物ではない。「子どもだから」と言って突き放すのはよくない。子どもでも自分の意見を伝えることができるのだから、もっと、子どもの言うことに耳を傾けて欲しい。
- 親の勝手などで、子どもが振り回されるのはイヤだ。子どもの意見を尊重して欲しい。
- 僕たち子どもは数え切れないほど、多くの悲しみを抱えて生きています。大人の意見は大切だとは思いますが、頭が固くなりすぎて、自分の意見しか良くないと思ってしまうのがとてもアホらしいと思います。これを書いている自身もこの年で何を言っているんだと思われるかもしれないが、今まで書いたような苦しみに悩んでいます。解決できるのは、人は自分自身だと言うが、自分がいくら誠意を伝えても伝わらない時があります。もっと子どもの現状を見てください。お願いします。そして僕を助けてください。

■自己決定について

- 親は子を導くものであって子を束縛するものじゃない。結局、何事も決めるのは子ども自身であるべきだ。親としても、受け入れられない意見はちゃんとした理由があるのだから、しっかりと説明して子どもを納得させて、その問題を決めるべきだ。
- 自分のやりたいと思うことに、お金がかかる時も、両親は私の意志を尊重してくれました。子どもには、家族の愛情は当然のこととして、様々なことを知ることをもって保障すべきでは…と、思います。色々なことを経験することで、世界が広がり、考えも広がり、選択肢も増えるでしょう。また、自立心、協調性、好奇心、責任感など、本来、人間として必要なものが、しっかり備わっていくと思います。このようなことが、子ども自身が、自分でしたいことを自分でするため、権利について考えるようになるかも知れないと思います。
- 親も子どもも理解した上で、決めたりするのは良いと思う。子どもの権利ばかり尊重してしまうと、子どもはわがままになったりしてしまう。
- 子どもに「これはダメ！」とか毎回言うのはどうかと思います。なぜなら、子どもの決断力を親が奪ってしまっているからです。だから、今の世の中に自分で決める事ができない子どもが増えているのではないのでしょうか？
- できるだけ、子ども自身で考えたり、行動する、という権利はとても大切だと思う。だから、自分自身で色々なことを考えたり、行動したりする時間がもう少しあればいいと思う。そして、子どももそれを無駄にするのではなく、活用していかなければいけないと思う。
- 今の子どもは何でも親が決めてしまって子どもはそれに従い、従わなければ怒られたりとても窮屈な思いをしていると思う。学校に行きたくないのに無理矢理行かされて悩んだまま自殺したり、誰かの暴力で死んだり。そういうのを調査する機関が少ないという事は知っているけど第三者が立ち入らなければ助ける事が出来ない子もいるしもっと調査してほしい。本当に助けてほしい。
- 自分が産んだからと言って、親が子どものすべてを決めるのは良くないと思う。

■居場所・余暇について

- 私が子どもにとって一番大切だと思う事は、くつろげる、ほっとする場所。そういう場所がないとがんばれない。そういう場所があると、本当の「がんばる」ことがわかると思う。そして、やっぱり何か小さな事から始めて、自分を見つけていくこと。おもいっきり、そのまんまでいけばいいです。
- 最近、小さい頃から、勉強とか英会話とか塾とかよく聞くので、子どもは自分の時間がなかったり、息抜きができる場所や、時間も少なくなっている気がします。
- 友だちのおばあさんが「あんたらはまだ若いんやから家の中でゲームせんでも外で遊びなさい」と言われる。少しでも友だちが反発すると「うるさい、子どもは大人の言うことを聞くものだ」と言われる。外へ出て遊ぶような広い場所は無く、あったとしてもゲートボールをする所しかない。外で遊べというのなら子どもが遊ぶ場所をもっと作ってから言ってほしい。
- 僕たちには自分の希望や質問に答えてくれる身近な場所が少なく、もっといつでも利用できる場所があればと思う。
- 外で遊んで汚れて帰ってしまった子どもを叱るのではなく「明日も汚れて帰ってこ

い。」と言えるような親が増えればいいなと思う。ものより思い出。

- 今の子どもはみんな忙しすぎると思う。もっと遊んだり、自分の時間が必要であると思う。世の中の事全てが難しいと思う。嫌になる事も多い。でもなんか楽しい。毎日が違うから。過去とか未来があるから、新しい時間があるのだから楽しい。自分なりの楽しさで人生を生きていく事が一番よい方法だと思う。

■ プライバシーについて

- いくら子どもであっても、プライバシーがあると思う。人が生まれながらに人権をもっているように、プライバシーをもつのも当然だと思う。
- 今日、家に帰ったら、このアンケートが入っていた封筒はもう開いていて、お母さんが、読んだ後でした。何で、私の名前が書いてあるのに、開けるの？と思ったけど、「なんか見られたらあかんものでもあるの？」と返されそうなので（返されたことがあるので）、何も、言わなかったけれど、それぐらい考えてくれてもいいんじゃないか、そう考えるべきじゃないか、とアンケートに答えながら考えました。
- 子どもの手紙や日記、メールを見る行為は、私は最低だと思っている。「人にされてイヤなことは、自分もしてはいけない」と教えてきたのは親をはじめとする大人なのに。大人は自分の手紙やメールを勝手に見られて嫌じゃないの？「あなたのことを把握するため」といわれて納得できるの？相手のことを考え、相手の気持ちを想像してみたい。本当に相手のことを大切に思うのなら、想像して欲しい。みんなは、一人の人間であるということ。心をもつ人間であること。
- 私は、よく部屋にいる時、お母さんが部屋のドアをノックしてくれない。確かに、まだ中学生は、子どもかもしれないけれど、もう半分は大人なんだし、いきなりドアを開けられるとメチャメチャびっくりする。
- 子どもも“人”なのだから、人権は守られるべきだと思う。子どもにも、プライバシーの権利がある。なのに、無視するのはよくない。「子どもは大人の言うことを聞いていれば良い」とか、「親のいうことを聞いていればよい」などと、子どもは言われるが、全くこれは人権無視だ。子どもも自我を持っているし、権利もある。大切にしたい。
- 私が手紙などを置いておくと、母が勝手に読むから嫌です。誰にだって、見られたくないのがあるし。友だちのことで、とやかく言われるのも嫌。私が友だちとして必要としている人なのに。付き合っている相手を選ぶのも、いちいち言わないで欲しい。私が選んだ人なのだから。それくらい信じてほしい。
- 秘密な事は誰でもあるのだから、いくらお父さんお母さんでも、携帯電話や手紙などを、許可なく見るのはどうかと思います。

■ 学校・教育について

- 子どもも生きているのだし、“教育”について、大人がもっと考えるべきだ。それと、怒れば良いというわけでもない。ゆとり教育もやめるべきだ。なんで授業でいちいち道徳！！もっと数学などをやりたい。
- いじめがないと、毎日、生活が楽しくなると思います。学校では成績が良い人だけに優しくする先生がいて、とても嫌な思いをする人もいますので、それを注意して他の大人が見ていれば、子どもは安心した生活ができると思います。
- 先生は私たち生徒を規則という鎖でがんじがらめにつないでいます。意味もなく怒

鳴ったり、理不尽な言葉をたやすくぶつけてきます。そういう場面に直面した時、友だちや自分自身、とても不愉快だし、先生に対する恐怖心や憎しみがこみあげてきます。それに、先生にため口で話したとして、その時は、先生も笑って答えてくれますが、また、ある時はとても厳しく怒ります。当たり前と思うかもしれませんが、この時、私たち子どもは、“なんで？”という疑問が生まれるのです。

- 私の学級担任は、子どもの意見を全く聞きません。毎日、先生は「遅刻」してくるのに、私たちが、ちょっとでも遅れたら、立たせてすごく叱ります。それで、授業が遅れて、しかも私たちの休み時間まで削られます。まだまだ先生に直してもらいたい事があります。それを先生に訴えても「反抗」としか、とってもらえず、怒られるだけです。だから、ちゃんと子どもの意見を聞いてくれる先生が増えるように先生への指導をしてくれるように、お願いします。
- 学校が週に5日になってから、私たち子どもが学習する内容が減ってしまったのではなく、減らされてしまっているのは、おかしいと思う。勿論、勉強したくないと思っている人は多いだろうけど、私たちが、小中学校で勉強してきて、「これは、もう教えられへんから」みたいな事を言われて、おかしいと思った。一人の人として生きていく上で、知らない知識が増やされてきている気がして仕方がない。これから、もっと、学習することが減ったら、どうになってしまうのかな、と思っています。
- 校則などの面で、厳しすぎるのではないかと感じることはあります。
- 先生が、「教科書を読んでください」と言ったが、誰も手をあげなかった。すると、先生が「読んでくれた人には、プラス5点です」と言った。その時、私は、これは、一種のおどしだ、と思った。その先生の発言にも驚いたが、それよりも、もっと驚いたことは、「プラス5点」という言葉を聞いて何人ががすっと手を挙げたことだった。何が絶対評価だと思った。教師は怖いのだと思った。今時の子どもたちは、何をやるかわからない。怒っても言うことを聞くはずがない。だから、教師しか持てない「成績」という力で、子どもを押さえつけるのだと思う。
- 最近の学校の先生は、子どもの権利を害していると思う。先生の何気ない一言で、学校や教室に来れなくなった友だちを、私は見てきました。先生という立場を利用していると思う。また、先生は、生徒によって態度が違うと思う。これは、差別だ。そんな先生は、先生をやる資格がないと思う。子どもだからって、先生の言いなりにはなれない。
- 子どもは、学校に楽しく行けることが一番ではないかと思う。私は、学校がとても楽しい。しゃべったり遊んだり皆で勉強したり、クラブ活動したり。普通に勉強もして、楽しい生活を送ることが大事だと思う。
- 学校などで、規則に縛られるのは、ちょっとは嫌だとか思う時もあるけれど、自分たちが、生活していく場所なんだから、ちょっと嫌かもしれないけれど、それは守るべき事なのかもしれないとも思うようになりました。
- 学校とかは、特に子どもの意見や考えを尊重していないと思う。一番、子どもの権利や考えを尊重しなければいけないのに、差別とかひいきみたいなのが、すぐわかるし、努力しているのに、全く認めてもらえない部分が沢山ある。こういうことがなければ、私も学校が居心地が良い場所になると思うけれど、子どもの目にもすぐわかるようなことを、平気でする大人がいるから、子どもの権利や考え・意見などが無くなると思う。世間でも教育の場でも、少しずつ、大人が子どものことを、考えるようになれば、子どもも尊重されてくると思う。
- 学校の校則や行事。そういうのは、子どもがやるんだから、決めたい。

- 今の学校教育には、「多様化」というものがない。一律のカリキュラムで、朝から夕まで、ちょこんと教室の固いイスに座っていても面白くないだろう。小学校は、それで一定の学力水準まで、引き上げるのも良いが、中学校からは、ある程度の自由を選べるカリキュラムを組むべきだ。ゼネラリストよりもスペシャリストが求められるし、何か一つ、自信があるものがあれば良い。高校でもそうだ。アメリカの様子などを聞くと、羨ましくてしょうがない次第である。結論として、学校と家庭がもっと子どものやりたい事を聞き出し、アドバイスをする、自信を持たせる、という構図を成り立たせる為に、子どもに「選択肢」という権利を早い段階から持たせるべきである。
- 学校などでもっとディベートや討論会をした方がいいと思います。
- 中学生らしくって言うとおかしいけれど、13~15才の子どもが一番美しく見えるような、楽しく思えるようなそんな学校生活にしたいし、私は子どもの権利は知らなかったけれど、まず、私は、周囲の人を大切にできる人になりたいです。自分を大切にしたいです。そして、おかしいと思ったら、しっかり言える自分になりたいです。

■いじめ・不登校について

- 学校でイジメをしている子、されている子がいます。もっと先生や家の人に相談して解決して欲しいです。先生も1対1で話せる機会を作って欲しいです。
- 上級の人が、手を出したりかまってくるのが、だるくてたまにイヤになる。
- 最近、友だちや先輩に、弁当やジュース等を買ってこいと言われパシリにされている。金もとられている。どうすればいいのかわからない。
- 子どものイジメとか、そういうことになってしまって、それを大人がしっかり聞いて欲しいと思う。悩んでいる事とかがあったら、大人が真剣になって聞いて欲しいと思う。
- イジメも絶対なくなるとは言えないけれど、親が自分の子どもをちゃんと見て「自分の子は、そんな事しないから」とか決めつけたりせず、「もしかしたら」と、少しは心配したりしたら、すこしずつでも、減っていくと思う。「虐める子」が出てくるのは、「教師」や「学校」のせいではなく、「家庭」に原因があると思うから、私は全家庭の親が、ちゃんと子どもと向き合って、一度だけでも、話し合う時間を作って、子どもの意見を聞いてあげて欲しい。そして、小さい頃は、ちゃんと面倒もみて、寂しげさせないでほしい。
- 今、イジメや子どもの不登校などの子どもに関する問題が多々起こっている。その人たちは、何か理由があって、人に言えなかったり、来れなかったりなどの理由から落ち込んでいる。それに対して、今、学校に通っている人たちは、その落ち込んでいる人たちをフォローできるように、手紙を送ったり、励ますという小さなことでも良いから、その人たちが元気になれる行動をしたら良いと思う。だから、子どもの中でも、「差別」が出ないようにし、子どもたちの充実した学校生活・家庭の生活を楽しくできるように、一人ひとりが自覚をするようにしたいと僕は思う。
- 不登校やフリースクールに行っている人以外にも悩んでいる子どもはいるのに、週一回のスクールカウンセラーとかじゃ状況の改善は無いと思う。悩んでいる子は自分からは相談しにくい。自分から相談しにいけるのなら自殺するような子はいない。子どもの権利は、子どもが知っておくのは当然だけど、私はもっと大人に知ってもらうべきだと思う。

■差別・障害者について

- 「子どもだから、大人だから、女だから、男だから」そんなこと言う人がいなくなれば、きっと差別もなくなるし、一人ひとりの権利が尊重されると思います。
- 今でも、大人は男と女を差別している。共に、人間なのだから、どんな場に立ったとしても、差別はいけないと思う。
- ニュースとかで、子どもの差別とかを見ると、本当にこんなことがあるのはいけないと思うし、こういうことは、身近にもあることだから、小さいことでも行動をおこすことが大切だと思う。こういう問題は、子どもも大人も真剣に取り組むべきだし、身近に話を聞いてくれる大人か友だちがいてくれるだけでも違うから、周りの人がそういうのに気付いてあげるのも大切だと思う。
- 私自身ボランティアに行くまで、障害者の子どもと普通の子どもというふうに差別していた部分があったかもしれない。けど、ボランティアに行った事によって障害者の子どもは普通の子どもと同じと分かった。どこかに障害があるとはいえ、普通の子どもと同じだった。そのため障害者だからという理由で差別はいけないと思った。

■安心・安全について

- 大人が子どもの事を考えているより、子どもは弱いです。
- 子どもの権利条約が作られた事自体が悲しい。総て当たり前の事が書かれてあるから。尊重尊重って大げさに聞こえるけど、そうでもしないと子どもの安全が守られないのかな。
- 子どもが大人びたことをやっているのに対して、精神年齢は低くなっていると思う。つまり、大人になりきれていないのに、大人と同じことをやったりするから、少年犯罪とかいう、よくわからない事件が起こったりするのだということです。
- 子どもの犯罪が増えるのは、それだけ親の関心が子どもから離れているんじゃないかと思った。
- もう少し安全に登校下校ができるようにして欲しい。不審者や誘拐などをなくすようにしてほしい。
- 幼児虐待や登下校中の小・中学生が襲われるなど、子どもが傷つけられている事件が多くて、中学校への自転車の登下校もけっこう不安です。大人の知らない人とすれ違ったりするだけで、ちょっとビクッとします。
- 何よりも、安心して、学校など公共の場所が利用できる社会が必要だと思います。その為には、周りの大人の「常識」が大切だと思います。
- 最近子どもが襲われたり殺されたりする事件が多いので、子どもは十分気を付けなければならない。あと、大人が子どもに対して気を付けなければならないと思う。大人が子どもを常に監視するとか学校の警備をきっちりするとかして、子どもを保護すべきだと思う。

■子育てについて

- 子どものことについて、話し合うのは、勝手ですが、子どもよりもまず、大人について話し合うべきだと思う。子どもを育てるのも不幸にするのも、子どもを育てる親

(大人) 次第。いくら、子どもについて話し合っても、原点である親(大人)がダメなら意味がない。

- 大人は子どものことを全部知っていると言える人が少なすぎると思う。自分の子どもは立派だとか言う前に、じっくり自分の子どものことを見直す必要があると思う。親の前と学校と全然態度が違う人がある。その親は、自分の子どもをどこまで知って(わかって)いるのかなあとと思う。だから、自分の子どものことを良く言うのは慎んだ方がいいと思う。
- よく、「大人が変われば、子どもも変わる」といいますが、そのとおりだと思います。子どもは、親を見て変わるのです。
- 子どもは、親の姿を見て、育っている部分が多いと思いますし、影響されやすいところも沢山あります。僕はまだ親や大人の気持ちなど、わからない部分が多いし、よく反発もします。心配してくれる気持ちなどが、かえってだるく感じられることがあるからです。もう少し、そっと見ていて欲しいと思うことがよくあり、子どもはそれを望んでいると思います。
- 今の時代、親の離婚などで、子どもが辛い思いをしたりすることが多くなってきていると思う。親の都合で子どもが、振り回されたりすることが無くなって欲しい。
- 親が、ダメな人が多いから、子どもが可哀想だと思う。学校の先生も言っていたけど、子どものまま、大人になった人が増えているから、子どももそんな、ダメな人間になってしまう。で、虐待ばかりあって、ダメだと思う。子どもには、権利もあるし、大人の言いなりになってはいけないと思う。
- 私の両親は私の意見をすごく大切にしてくれるから、私も両親が好きです。両親が子どもを大切にしないと、子どもは大人も周りの人までも信じられなくなると思う。先ず大人がしっかりすべきだ。

■子どもの権利全般について

- 「子どもの権利」などは、あまりわからないけど、もっと子どもを大人がみてほしい。外見だけじゃなくて、中身をみてほしい。
- 子どもの権利の尊重ばかりだと、学校へ行かない子どもや、やめる子が多くなっていく。自由ばかり認めていくのは、どうかなと感じます。判断力の甘い子どもに、自由ばかり認めても、楽に逃げているように思う。我慢ができないし、厳しいことは辞めたがるし、お金や楽しみを得る為に、自由になりたがるようなところが多いから、子どもでも大人でも自由を尊重すると同時に、自己で責任を果たすべきではないかと思う。
- 子どもの中には、塾に行きたくないのに、親が勝手に塾に行かせることがあります。僕は、そのことについて、親がもっと子どもの気持ちを考えることが必要だと思います。そのような子どもの権利を守ることで、初めて子どもが親の言うことを聞くようになるからです。そうすることで、親と子どもの距離は今以上に近づき、子どもにとっても近づきやすい存在となるはずで、ですから、親がしっかりと子どもの権利を守ることは、とても大切なことだと僕は思います。
- 「子どもの権利」を大切にすることで、虐待などが減るし、将来を担う大切な子どもが、自分の意見も相手の意見・考えも理解ができる大人になる。そうなれば、イジメや非行・虐待はなくなり、大きく言えば、世界が注目する人材が多くなる。「平和ボケをしている」と世界の人々に言われているが、平和の何が悪い。だれもかれもが、幸せで笑顔の絶えない国のなにかが悪い。子どもの純粋な考え、思想をもっととりいれるべき。

- 「子どもの権利条約」の内容・言葉でさえも知らない人は、たぶん沢山いると思うし、少しでも多くの人が、この条約のことを知ったら、もう少し温かい日本になるのではないかと思った。
- 権利って、そもそも何なのかなあ、と思います。権利、権利と聞くことがあるけど、権利を決めるよりも、先に権利とはどういうものなのか、ということを考えなければならぬ。それができなければ、子どもにとって本当にいいという権利はつくれないと思う。
- 「子どもだから」「子どものくせに」ということは、“子ども”というものを、年が下ということだけで、上から見下ろす感じで見ているので、もっと自分たちとできるだけ同じレベルで、それができなくてもなるべく近いレベルで、自分の子どもの時と比べながら物事を考えた方がよい。
- 大人の方が、もっと子どものことをよく考えて欲しい。もう少し子どもにも優しくすれば、もっとよくなると思う。それに、子どもにも権利があるということを、大人の人に知ってもらいたい。
- 子どもの権利は、確かに大切だと思います。ただ、ちょっと勘違いしてしまうと、「子どもなんだから、何をやっても許してもらえる」みたいな感覚になる人も出てくるんじゃないかなあ？と思います。「子どもだから」って甘えないで、「社会の一員」として、最低限のマナーやルールはちゃんと学ぶべきだと思います。
- イジメとか、虐待が増えているのは、昔の人が子どもの権利や自由を尊重しなかったからだと思う。小さい頃に、大人や親から虐待されたり、差別されたりすると、その心の傷が、また、違う人にあたってしまうのだと思う。もっともっと早く、心の問題とか考えるべきであったと思う。
- 社会についてあまり知らない子どもが、権利権利と叫んでも、かえって子どもに不利なところがあると思う。子どもに権利を与えるな、とは言わないが、それ以前に、大人は、子どもに権利とか義務とかいうのをしっかり学ばせ、社会に出ても恥ずかしくないようにするべきではないか？
- 最近の大人がやっている事は、子ども以下。常識がない。全ての人がそうではないけれど。大人にも権利があり、子どもにもある。今、子どもの権利を汚しているのは、大人だと思う。尊重する為には、大人、子ども関係なく、話し合える場が必要だと思う。大人は子どもの見本です。今のようなことをしていたら、子どもから信頼されなくなります。
- 「…権利の尊重よりも責任を…」というのは、そのとおりだと思う。責任を果たせる者だけを守ってあげればいいと思う。それができない者を守るのは、甘いと思う。これ以上、少年犯罪がふえたりしないように、その辺を考えて欲しい。
- 私は、権利を尊重ばかりすると、わがままになるとは思いません。権利は子どもにも大人にも平等にあるのです。子どもの権利を尊重ばかりすることが、子どもをわがままにするのではなく、わがままは権利とはあまり関係しないのではないのでしょうか？
- 今、私が思うことは、権利をとられた子どもたちが泣いていると思います。大人が子どもの権利をとるということは、とてもダメだと思います。権利をとられた子どもたちは自由になれず、悲しい思いをしていると思います。そこへ、大人が手を差し伸べて助ける方がいいと思います。その一歩が、やさしい大人への階段だと思います。そのやさしい言葉をわすれないようにしてほしいです。
- 自分の自由にできる権利はあると思う。しかし、まだ未熟な面も当然あるので、間違いなどを犯したら、そこで大人がキチンと正しい方向へと導いてやるのが、大切

だと思う。日本は、他の国に比べ、子どもの権利は、尊重されている方であると思う。また、多くの国で、子どもは“小さな大人”とみなされ、低賃金の中、働かされている。ある国では、ストリート・チルドレンや親も家もない子、売春をして生きていかなければ、暮らせない子どもがたくさんいると聞いた。その点、私たち日本人は、学校にも行けて幸せだと思う。そういった子どもの権利、安全を守っていかない限り、同じような子どもがどんどん増えていくと思う。

- 私は、「子どものことをもっと信じること」が子どもの権利を守ることだと思います。やりたいことがあっても「あぶないからダメ」とか「あんたには無理」と始めから決めつけられるのは、すごくイヤです。テスト勉強で、「〇〇点とる」って言うだけでも、「無理」とか、「もっと勉強しろ」とか、わかっている事をいわれると、「もっと私を信じてよ」とよく思います。
- 子どもにいくら権利があっても、大人たちが知らなければ、全く権利がないのと同じ。立場的に大人が強い位置にいるのだから、子どもに不利な事にならない。
- 一口に子どもの権利を守る！とか言っても、どこで誰が何を守るのかがしっかりしていないと、子どもの権利に守られて育った子どもたちは、いつまでもわがままな子どもから成長できないと思う。もっと子どもから見た権利と大人から見た権利の違いを理解した上で権利というものを考えていかないと、どちらかの一方的なわがままによって権利というものが出来てしまう気がする。本当は時代の流れが変わっても子どもは変わらないと思う。子どもの考えを変えてしまうのは大人が作り出した社会なんだから。
- 子どもの権利は、これから本当に真剣に考えていかなければならないことだと思います。私は、今までに子どもの権利について、何度か考えたことがあるけれど、「子どもの権利って大切だなあ」って、すごく思いました。子どもだからって、差別されたり、見下されたりするような社会じゃダメだと思います。子どもがもっともっと尊重され大切にされる世の中に早くなってほしいです。そして、そんな世の中にしていきたいです。
- もっと、子どもの権利を守った方が良いと思います。日本だけではなく、世界で、そういった条約がせつかくつくられたのだから、意識を高め、子どもの権利を守って欲しいです。まだまだ、他国・日本でも子どもの権利条約を知らない人が多いと思います。少しでも多くの人に知ってもらえるように、身近な公の場で講演するべきだと思います。
- 子どもの権利というのが僕には気に入らない。子どもであれ大人であれ善悪は同じ。それをはっきりさせるべきだと思う。子どもにわかりやすく書いた所で内容は大人にも十分当てはまると思う。わざわざ子どもの、と付ける必要は無いと思う。そもそも子どもの権利を踏みにじる大人の多い中、大人に権利の話をして納得出来るはずがない。テレビなどで若者の一部を見て「子どもは変わった」などという事をよく聞くが実際、町を歩けば子どもの不良と変わらないほどマナーが悪い大人を見かける。歩きながらの喫煙や表示の真ん中でのタバコ、道にタンを吐く、信号無視、スピード違反、飲酒運転などこんな連中に人の道が教えられるはずがない。わがままな子どもを育てるのはそういう連中を見ているからだ。あるだけの権利条約など要らない、意味のあるものをその出来る大人にお願いしたい。
- 例えばいじめがあった時、私の場合は「あなたのプライバシーを守るためにいじめを公にしない方が良いのでは？」という曖昧な態度をとる教育者がいる事に、権利の本来の意味を知らない大人の側面を見ました。権利の主張とはその人の人格を認め、受け入れる所から始まるものだと思います。権利を振りかざしている大人に、子どもの権利について考え直す機会を設ける事が今必要とされているのではないのでしょうか。

- 今ある子どもの権利というのは子どもが悲しまず育つ為に、どうしても必要なものばかり。こんなことは法律で決めなくても守られるべきであり、「子どもの権利条約」の存在を人に知らせるより、そんなものがなくても子どもが安心できる地域づくりをすべき。
- 私は子どもの人生とか権利も大切だと思うけど、大人の教育も必要だと思います。あと、児童相談所が全然全く役に立っていないと言うところも見直すべき点だと思います。子どもの権利は大人が守ってあげてほしい。そこで権利などが生まれると私は思います。
- お父さんと意見のくい違いで、ケンカした時、「おまえは子どもなんだから」みたいなことを言われて、いくら私の為、とか言われても、納得いくものではなかったりなど、ふだんの生活でも、沢山の不思議な、おかしいところがあるので、そういう事に気付いてもらう為にも、子どもの権利がもっと大切だと知ってほしいし、自分も周りの人の権利を考えられるようにしたいです。

■その他

- 「最近の子は」とよく聞くけれど、何もかもに無頓着な子ばかりじゃないと思う。中には、常識や迷惑がかかっているのを知らない子もいるけど、反対に夢を実現させようと、頑張っている子にも注目して欲しい。
- 挨拶なんかは大人から進んでしてくれた方が、こっちも言いやすいのです。
- 子どもとは「子供」と書きますが、私は“子ども”と書きます。小学生の時の先生が「子どものどもは“供”と書くけど、この字は“お供する”みたいな感じで、嫌です」といったのを聞いて、私も共感し「子ども」を使っています。子どもはお供するのではなく、一人の人間なのだから。
- 「電話総合相談室」がフリーダイヤルではないので、家の人に聞かれたくないという理由で、相談室に電話をかけられない子どもが、実際にいるかもしれない。学校などの帰りでも、公衆電話で一人で相談室に電話できるようにしてほしいです。
- 子どもも一人の人間であり、道具やものでない事を、多くの人に知って欲しいと思う。それは、子どもも例外ではないと思うので、授業に取り入れてみる等して、一人でも多くの人に伝えて欲しいと思う。
- 自分も子どもなので、大きなことも言えないけれど、子どもの将来は無限なのだから、その点を活かせるような社会であって欲しい。

7-2-2 おとな

■虐待・暴力について

- 岸和田での親から子への虐待事件を聞き、親から愛情を受けて育つことが最小で最大の子どもの権利だと思う。
- 虐待をしてしまう大人たちも結局は近所づきあいも面倒ばかりと言って希薄になり、相談する人も愚痴を言い合える人もいなく、他人を注意する人もなくなってきました。やはり、地域ぐるみで何でも言い合える関心を持てる関係を作り上げていく必要があると思います。地域で虐待ゼロを目指し、他人のことにも注意を払っていける関係が築けたらいいなあと思います。
- 子どもが安心して暮らせる家庭を望みます。家庭は密室であり、外から見えないが現に家庭内での不幸が包み隠されている現実がある。
- 大阪の件ですけど、親の身勝手に子どもの成長が閉ざされないように、行政の取り組みをもっとやってほしいと思います。
- 多発する幼児虐待について、子どもの権利と、どうこう言うまでに、①愛を受けないで育った子ども、過剰な愛で育った子どもがそのまま親になっている現状を見据える必要があると思う。②虐待の事実素早く対応できるよう、教育、警察など、あまりにも消極的だと思う。
- 児童虐待についてはその両親のどちらかが、子どもの頃に虐待を受けたことが多いと聞く。その連鎖をどうしていけばよいかはよく分からないが、子どもたちが社会全体にとって最も重要な存在と考え、社会全体で守っていくとすることが出来ればいいと思う。
- 最近テレビで子ども、それも我が子の虐待が多く報道されています。なぜでしょう。子どもがかわいくないのか、子どもの将来が楽しみではないのか？色々思います。
- ここ近日、ニュースで取り上げられている中3男子の虐待に胸が痛みます。同年代の娘がおります。将来の夢を語ることなく、絶望に心が侵されてしまったであろう彼を思うと、どうしてそうなるまで介入できなかったのかと問うてしまいます。子を愛せない親、憎悪さえも抱いてしまう親が存在するんだということは紛れもない事実です。悲しい現実です。
- 最近のニュースから、児童虐待の被害を耳にしますが、同じ子を持つ親としていたたまれません。子は天からの授かりもの、未来の為の人間を作っているのだということ肝に銘じ、子育てをしていく。「個を大切にする」は自分ではなく、子どもや他人を大切にすること。新しい生命を祝福できない未熟な親を社会で支えていく体制作り等、子どもの権利を大人は勉強したり考えたりして、よりよい大人にならなくてはと心から思っています。
- 最近、子どもの虐待などあつてはならないことが普通に起きていることに驚いてしまう。昔のように、普通に子どもを育てていけないような現状があるのではないかと思う。
- “子どもの権利を尊重する”こと以前に、生きる権利さえも守られていない虐待の問題が気になる。事件などにならず、表面化されていない問題がたくさんあるのではないか。

■しつけについて

- 子どもを権利を尊重する事は大事な事だと思いますが、学校の先生や近所の人が悪い事をした子どもを叱った時、それだけで叱った方が悪者になってしまう今の社会は

おかしいような気がします。

- 権利だけを教えるのではなく、義務と一体であることをきっちりと教えて欲しい。悪いことをした時は叱られるのはあたり前、本人が悪いと思っている時に叱らないと効果はない。
- 家庭の教育、しつけが最近ほとんどない。いまの世代の親の親としての質の低さがあまりにも感じられる。社会の基本の家庭が成り立っていない。現状を見ると権利云々と言うよりも「家庭での教養、しつけ、教育」の向上を目指すのが重要ではないかと思う。行政、学校はもっと親の再教育の徹底が重要。
- 近年の子どもたちは自由をはき違えて人の命の大切さ、物の大切さをあまりにも軽く考え、自分自身に対するわがまま、世間に向けての甘えだけで軽々しく行動している子どもが多すぎて本当に恐ろしい気が日々しています。社会全体がもっと子どもに正しい道徳を考えさせ、何事にももっと厳しく対応すべきである。子を持つ親たちがしっかりとしつけを身につけさせるべきだ。学校とか社会の責任にするのは、親が子に面倒くさくなって逃げているだけのこと。素直で人に対して思いやりのある子に育てる様、親たちがもっと真剣に考える時が来ているのではありませんか。
- 自分の子どもが悪い事、または人に迷惑をかけて、たたけない親もおかしいと思う。
- 子どもが悪い時、反モラル的な事をした時はまわりの大人が気にせず叱って欲しい。学校の先生についても手を挙げてもらってもかまわない。良いことは良い→褒めてあげる。悪いことは悪い→必ず叱る教える（何故かを明確に）。
- 子どもの権利を言う前に大切なことは、保護者の子どもへの関わり方（しつけ）の問題が大きい。個性を大切にということをもそのまま思いこみ、子どもと関わっている保護者の方や、その反面きっちりと厳しく家庭で一挙一動にも目を配られる保護者の方など、両極端の育て方をされている保護者の方があまりにも多いような気がする。

■意見表明・参加について

- 自分の事は自分でしっかり考えなさいといっているにもかかわらず、いざとなったら親の意見を押しつけている事が多々あるのではないかと思います。
- 子どもの権利について一番大事な事は、本人たちの意見を幅広く取り入れることだと思う。当人の意見を無視しての権利は、単なる押しつけでしかなく、本当の意味での権利といえないと思われる。
- 意見というより要求が強くなり、他の人と協力がしにくく、どちらかといえば自分勝手になってきていると感じる。
- 自分より年下の方が何を考えているのか分からないので、よく10代のテレビを見ています。みんながみんな、その様に考えるわけではないと思うのだけど、話を聞いて納得する事や「そういう風に考えているのかあ」とか、色々思う事があります。自分が10代だった頃と今の10代では少しずつ変わってきてる気がしてなりません。自由に生きるのはいいと思うけど、成人してしまうと自分の思い通りにいかない部分が増えてくるので、ある程度はしっかり自分の意見を持って反発も多少は抑えないといけないと思います。

■居場所・余暇について

- 駅やコンビニにたむろする子ども、子どもたちが集まる場所がない。昔は山あり、田んぼあり、子どもが遅くまで遊べる所がたくさんあったが、今は少ない。また、家

庭も個人主義になり近所付き合いも少なく、家庭で子どもが集まる事も少ない。大人の地域社会での交流を深めて、子どもにも広めてゆくべき。人との交流で権利や責任が身に付くと考えます。

- 今の子どもたちは友だちと外で遊ぶことをしない。また出来ないのかな？ゲームなど室内での遊びに夢中になっている。
- 今の子どもは昔の子どもに比べて、受験戦争や塾通いなどが当たり前になってきているのでかわいそうだと思います。
- 私の子どもたちの小学時代はスポ小や塾などで、本当に多忙で、ゆっくり休む日が欲しいと思ったほどです。中学の部活も正月くらいしか休みが無く、高校はまた塾の毎日でした。今の中学生たちは部活も休みの日をもうけ、週休2日制になり、少しはゆとりという時間が表面的には出来たかもしれませんが。
- 子どもたちが自分の居心地の良い場所を作ったり、居心地の良い関係を作り直していけるように子育てしていきたいと思っています。まずは今の自分がどんな意識なのか問い直していきたいと思っています。
- 塾やスポーツ少年団に入らないと友だちが出来ないとか、習い事が多すぎるせいか、地域での大勢の子どもの遊ぶ姿を見ることがめっきり少なくなっているように思います。昔のように缶蹴りやかくれんぼを地域のみんなで出来る（大人がやらせるのではなく、自然に友だちが集まってくる状態）、小さな子も大きな子も障害のある子もそうでない子も、そんな中で育っていくことが権利や義務の意識につながっていくように思います。

■学校・教育について

- ゆとりの教育が大切と言われているが、週休2日制になって、ゆとりが逆になくなったと思う。塾や習い事、スポ小等を親の都合でやらせるのは良くないと思う。
- 最近、テレビ、新聞等の報道によりますと、授業中に生徒が携帯でメールしたり、通話しており、先生が注意してもやめない。また、手をあげると「教育委員会に言いつける」というから叱れない。また、他の生徒まで伝染する。これでは教育の場とは言えない。善悪を教える為には少しぐらいの体罰は必要だと思います。
- 今の時代、心の勉強がすごく大切になっていると思います。人を思いやる気持、相手の立場になって物事を考えられる、そういう人間を作っていかなければなりません。人である以上やはり心の豊かさが最も大切であると子どもたちに教えてあげればと思います。

■いじめ・不登校について

- 優しさや痛みを十分に学習してこなかった子どもたちは、ゲーム感覚のいじめを当たり前のように行ってしまいます。自分が今したことがどんな重要なことかすら分からず…。こういった子を救うためにも幼児教育、学童教育における、心の学習がとても重要になり、今一番やらなければいけないことだと思います。
- 不登校児が自分の周り（知人のお子さんたちの中に）にも多くいることに、どうすることが解決につながるのだろうかと考えてしまいます。
- 子どもがいじめはいつまで続くのでしょうか？今は小学校でもちょっとした事でいじめにあっている子が多いです。幼い子どもはちょっとした事で傷ついたり、自殺まで考えたりする事があるので大変です。そんな時、両親がとまどっていたら余計に子

どもも不安がったりするので、しっかりと受け止めてあげなければいけないと思います。

- 子どもが中学の時にじめにあっている事を、卒業してから、その時本人が付けていた日記から知りました。それを読んだ時は涙が止まりませんでした。そんな辛い時、親として気づいてあげる事が出来なかった自分を責め、すごく辛かったです。“いじめ”は社会の問題にもなっています。もう一度親、学校、社会が考えなければいけない問題だと思います。
- 今現在中学のクラスで、女子は「仲間はずし」って言って、意地悪でクラスの女の子が学校にでてこれない子がいると聞いてびっくりしました。楽しいはずの学生生活、共に勉強、部活、旅行、色々悩みあり喜びありを友人と乗り越えて過ごせる学生生活なのに、今の時代の子は本当にかわいそうな面もあり、行けない女の子の親の話を聞き、話して欲しいです。いじめる子は親がどう思っているのか本当に叱ってやりたいぐらいです。

■安心・安全について

- いじめの話や、学校への不審者の話、通り魔の話や交通事故の話など、色々聞くたびに自分の子どもを学校へ行かせるのが不安になります。自分の子どもが近くの公園で遊ぶのも不安になります。今、大人が教師ががんばって、居心地のいい学校・地域、安心・安全な学校・地域を作っていきましょう。
- 悪質な子どもに対する犯罪が増えていて、子どもを持つ身としては不安になる毎日です。子どもたちには生きる権利、育つ権利、嘘をつかなくても真に暮らせる環境が必要です。

■子育てについて

- 子どもは親の所有物ではない。子どもの権利を尊重しなければいけないと思っているが子育ては難しい。
- 子どもたちが墮落したと言われるようになったのはいつの頃からか。子どもの権利が過大評価されはじめた頃からではなかったか。私は「普通」の両親の元に生まれて本当に良かった。あのとき厳しくしかってくれて私の頬をぶつけてくれなかったら、今の私はない。結論：大人を（特に団塊とバブル時代に就職した人々）を再教育し、子どもを叱ることが大事だと思う。
- 子どもも大きくなるに従って自立できるように責任を持たせ、大人もそれを見守るようにしないと社会に出た時、勉強だけしていた子どもは自立できず、社会の中で迷ってしまうと思う。親も1から10まで子どもに押しつけの教育をせず、子どもの権利を尊重し甘やかさず愛情を持って接していきたい。
- 近頃の子どもは甘やかされて育てているせいか、何事にも我慢がない。権利ばかり主張して責任を果たさない。それは今の親も同じ事をしていると思う。今の若い親たちは離婚する事やまた再婚することに何の抵抗もなくし、子どもを産んでも立派な人間に育てようとする気持ちもない人が多くある。
- 現在の子どもは甘やかされて育てている。欲しいものは何でも手に入れられるし、そのくせ自分一人では何も出来ないわがままな子どもが多い。だから、自分に責任を持たすように育てなければならないと思う。
- 自分で選択して、招いた結果は自分の責任であるというのが、大人というひとつの定義だと思うが、そういう大人になるためにも、子どものうちから選択しては失敗するという試行錯誤を繰り返すことは必要不可欠だと思う。

- 子どもに対しての親の責任が薄くなっている感じがする。子どもの健全な成長は家庭（親）の基礎があって成り立つものであるが、親の責任を置いといて、社会や教育現場の責任だとする風潮を感じる。
- 人間としての基本を培う幼児期に質の高い環境（人的・物的・自然的）、特に人的環境を整えて心身共に健康な成長がどの子にも保障され、確立し人間としてあるべき姿が獲得できたならば、将来、今のような対応は大幅に減少し、社会も安定して多くの分別ある立派な大人に成長してくれると思う。まず、幼児期の教育に社会全体が目を向け重要性に気づき、その環境に最も力を入れて充実させるべきだと思う。
- 子どもが家庭の中で正しく愛されて育つこと、その事を子どもが良く自覚されていること、大きくなって苦しい時にも耐えて生きていく力が育っていくように感じる。
- 私が子育てをした時代は、現在ほど勉強、勉強と子どものお尻をたたくことも少なく、夕方まで外でどろんこになって遊び、少年スポーツ団で汗を流し、のびのび育ったように思う。また、悪いことをすると近所の方にも叱られ、地域で子どもたちを育て、親の目が充分行き届いていた。
- 常に子どもと会話をし、子どもも一個の人格を持った人間として接する。地域との関わりが少なくなっている分、親がしっかりと関わってあげる。目配り、気配り、心配りの大切さ、お金をかけるのではなく心をかけてあげる大切さ。もう一度、親自身も考え直す必要があるのではないかと思う。
- 世の中、男の人はもっと育児に関心を持って欲しいです。子どもは夫婦が協力して、お互いの性別の特長を活かして認め合う中で、別性を認めることを学んだ大人になると思うし、他人を尊重する大人になれると思います。子どもの権利を認めるためには大人が変わらないとダメだし、大人から次の世代へ伝える中で権利は与えられるのではないかと思います。
- 幼少の頃は子どもに手をあげることもありましたが、小学校に入り話を聞けるようになった頃からはなくなりました。まず大切なことは、話を聞いてあげる人がいることではないかと考えます。幼少の頃から親の手で、愛情深く育ててあげられる環境があればと思います。
- 大人といえども子育ての勉強が不十分で、独断と偏見で子どもを叱ってみたり、疲れてくると感情的になって子どもをたたいてみたり、その様な大人が非常に多いことから、もしかしたら子どもの意見をしっかり聞いてくれる大人がいたとしたらたたく必要がなかったかもしれないから、たたくことは反対です。大人は高い位置から子どもを見るのではなく、真正面から向きあって養育していくものだと考えます。
- 親が子どもに気を遣う家庭があると思えば、また、反対に親の感情で手を出しすぎ子どもの心を傷つける家庭があるように思います。
- 子どもの善導は愛和な家庭にあると思います。愛和な家庭を作るには親の愛和な人格、人柄によるものだと思います。人を育てるのは大変な難事業と思われませんが、難しければ難しい程、子どもを育てる喜びがあります。私には二人の子どもがいますが、自分の人生と子どもたちの人生と、三回人生を生きているように思えます。子どもを授かり、親の立場を与えていただけたことに感謝しています。人としての深まり、向上をめざしたいと思っています。
- 私は家の中でできる仕事を子どもにやってもらっています。私が外で働いているので家の事がおろそかになりがちですが、子どもが掃除やご飯を炊いてくれたり、お皿を洗ってくれたり、自分もこの家に必要だと思ってくれている、人の役に立っていると言う事を自覚して欲しいと願っています。私は子どもたちが自立していくお手伝いをさせてもらっていると思う。そして、子どもたちからも多くの事を学ばせてもらっ

ていると思う。私は子どもに、人の役に立つ人間になって欲しいと願っています。そして人の痛み（心や体）が分かる人になって欲しいです。

- 子どもの考え方を尊重して遠くから見守り、たとえ悪い事をして他人のせいにして逃げるのではなくしっかりと教えてあげて欲しい。悪いことをすることを両親が恐れ、事前に注意するのもいいが、悪い事をしてから教えてもらう方が子どもの為にもいいのかなって考えています。

■子どもの権利全般について

- 子どもたちは社会のルールを身につけ守り、安全かつ幸せに成長していく権利があると思います。それを見守る社会（地域）がもう少し意識改革して下さることをお願いしたいです。それから、保護者も放任する方が増えている様に思われますが、親としての責任も忘れないで欲しいです。
- 総て権利を主張すると同時に、責任義務を果たすことが基本にあると私は考えています。子どもの権利条約等で主張されることは本当に納得できる内容ですが、その権利を主張するためには責任を持った言動、行動の出来る思考を持たせるような教育が不可欠だと思います。
- 経済的な力の無い時に、まだまだ親のすねをかじっている時に（権利、権利と尊重し）甘やかすのも、どうかと思う。しっかりとした判断や第三者の意見も耳を傾けて聞け、また理解できて自分なりに考えられる年齢になるまでは、権利の独り歩きをさせたくない。
- 成人式や一部マスコミで報道される青少年の反社会的言動はほんの一部の現状ではあると思うが、社会全体で考え、実証していかなくてはならない。子どもといえども権利を付与するからには当然のこととして、「それなりの義務」を同一視点で議論すべきである。
- 子どもの権利を守ることは大事なことであるが、あまり権利を強調しすぎると義務とか責任がなおざりにされ無責任がまかり通ることになる。小さいうちは義務とか責任についての教育も大事な事ではないか。
- 子どもたちの自由の権利と、自己中心的考え方を間違わないようにする事が大切です。権利は総ての人間に平等にあるもので家庭においては、親にもあるし、子どもにもある対等な権利でもあり、大人は子どもたちの権利も守ってあげることも重要であるが、子どもたちも大人に向けた権利というものを考えなければならないと思う。
- 最近の子どもはやたら「権利、権利」と言いすぎだと思う。「権利」って言う前に一人の人としての常識や意識を持った行動をするべきと思う。未成年（中学生）がたばこを吸ったり、まわりの迷惑を考えてない行動を取ったり自分勝手すぎ。
- 私の子どもたちはまだ幼いのですが、成長していく過程で「あんな権利があるよ」「こんな権利があるよ」と教育していく事ではなく、子どもの自然な生活スタイルに権利があり、当たり前それが守られる社会が築かれる事を望みます。
- 生まれてくる全ての子どもが一番の権利は愛されることではないでしょうか。
- 子どもにも絶対権利は必要だと思います。が、その権利を間違えて捉えている子どもたちもいます。
- 自分が幼い頃から育ってきた環境（家庭、地域、学校…）がどんどん今は変わってきていると思う。素直に子どもの事を愛し、考えていける大人たちが周りにいれば子どもの権利、子どもの事について守られていくと思います。

- 「子どもの権利ばかり尊重すると子どもがわがままになる」に、そのとおりだと思うに○印を付けました。その理由として、保育園、小学校、中学校などを見ていますと、自由と放縦を混同しているように見受けられます。「何をしても自由だ！」と人に迷惑をかけても気にすることなく、目に余る態度があります。権利を主張すると同時にある程度の決まりを守るなど、責任という面も大切だと思うのです。
- 時代が変わった、環境が変わったといっても、普遍的に守られるべき枠組みもあるはず。子どもの周りにいる大人たちが愛情を持って接すれば、子どもの権利が議論される事もないのですが。
- 子どもは成人になるまで両親の権威に従い、子どもは多くの権利を主張するものではなく、成長する過程で徐々にその権利を与えられていくものです。
- 大人だけが権利を振りかざすのは間違っている。どんなに小さな子どもにも、この世に生まれた時から「人間としての権利」が与えられる訳で、それは他のものが傷つけたり、“言葉”という暴力で侵される事はあってはならない事だと思う。現在、子どもが生まれてきた事を、“とても素晴らしい事だ”と素直に喜べない大人が増えてきている事はとても悲しい事で、他人事にせず地域で“未来ある子ども”を守っていく必要性に迫られていると痛感します！！
- 子どもの権利を守るのはとても大切なことだが、最近、権利・自由と「わがまま」をはき違えている無責任な親とそれに甘えている子どもが目につく。権利を与えると同時に他人の権利を尊重できる人間になるためのしつけ、教育も必要ではないか。

■その他

- 第1に今の子どもは常識のない子どもが多い。第2に自分勝手主義が多い。第3に出会っても挨拶が少ない。第4に悪いことをしても反省の色がない。
- 通勤する中で小・中・高生のマナーの悪さをこれからの未来と重ね合わせると失望感を感じます。自己中心的なその態度は目に余る物があり、注意をすれば歯向かい、見過ごせば助長する。
- 最近の子どものことを色々と悪い子どもとか決めつけてよく言われますが、子どもによっては心の優しい、良いところがあると思います。良いところはのばしてやってほしいと思います。昔と今はだいぶ違いますが、子どもの思っていることを理解してやってほしいと思います。
- テレビで両親の離婚や病気、経済的理由や暴力によって傷つき、悩みながらも前向きに生きている子どもたちを紹介していました。とても感動しました。しかし、子どもたちを保護する為の施設の老朽化や指導員たちの負担は大変なもので、画面を見るだけの私にもその苦労や大変さが伝わってきました。滋賀県は、無駄な公共施設の建設にお金を使うのならば、私はその税金で将来を担っていく子どもたち（特に傷ついて保護を必要とする）にもっと支援して欲しいと思います。
- 子どもはまさしく宝物だと思います。子どもの存在がなかったら、世の中はなんてつまらない世界だろうと思います。
- 親が子どもを好きでない傾向が増えているのが気になる。

7-2-3 施設の子ども

- 親や大人が話を聞いてくれへんから子どもが悪い事をすると思う。
- 最近の大人たちは厳しすぎたり解放しすぎていると思います。よく子どもと話し合う場を作った方がいいと思います。子どもは大人が思っているよりすごくしっかりしていると思います。
- 大人が「最近の子どもは変わった」と言うのを聞くが思うことは2つ。1、変わったのは子ではなく大人。子がわがままになったり言うことを聞かなくなったのは親や学校の先生がしつけをしなくなったから。2、時代のせいもある。今の時代、集団でいる子どもたちが少ない。しかし学園などの施設への偏見が多いような気がする。
- 子どもを虐待するなら何で子どもを産んだのか、虐待されてる子どもの気持ちも考えろ。子どもは大人の殴るおもちゃじゃないからもっと子どもを大事にしてほしいです。
- 「子どもと大人の違いって何なん？」とよく聞くのですが、どう思われますか？僕は大人と子どもは体の違いと責任感が強いし大人は自分の事は自分で出来るからだと思っています。だからといって、子どもの権利を尊重しないのはいけないんじゃないかなと思っています。
- イヤなこと。先生の怒り方。むかつく。すぐきれるのがいや。ときどき決めつけることがある。分からへんくせに決めんといしてほしい。
- 何らかの理由があって親が面倒みれない子どもが施設に入っている。だから先生が親代わりになる。長く施設にいる子は10年とか、もっといる子もいる。大切な時期を親代わりとして面倒を見るのだからもっともっと自覚を持ってほしいと思う事が多々ある。子どもには駄目だといっている事をしてるとか、感情に任せて怒るとか。しっかりとした理由があって怒っているなら仕方ないけど機嫌が悪いからとか、そういうのはやめてほしい。
- もっと親は子どもの面倒をちゃんと見るべきだと思います。親が面倒を見ないから施設などに行きたくない子どもが親の勝手に施設に入っているから、僕も含めてみんな子どもは親をどっかで恨んでいると思います。
- 子ども権利が守られないのはとてもおかしいと思う。自分の子どもを解放し、ほうっておくのはおかしいことだと思うし、やってはいけないことだと思う。家に帰りたいとずっと思っている。親も大変だと思うが子どもの意見はとりいれられないものだろうか？
- 先生が言ったことばかり聞くんじゃなくて自分の考えで自由にやっていきたいと思う。時々いやなことがあったら早く家に帰りたいと思うことがある。
- 子ども権利とはプライバシーが守られる事、発言が出来る事だと思います。しかし子どもは未完成です。多すぎる権利は子どもの心を破壊する原因だと言えるでしょう。増加する少年犯罪、これもです。子どものための権利は必要最低限で良いと思います。なぜならやりすぎる権利は子どもをわがままにさせ調子に乗らせるからです。
- 各施設で話し合ったりした方がいいと思う。それか園長と1人1人話し合ったり、児童の気持ちをもっと分かってほしい。